

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | 知識と情報の世界 |
| 科目番号 | 01MB101 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 水 1,2 |
| 担当教員 | 緑川 信之, 横山 幹子 |
| 授業概要 | 知識と情報の概念について, 哲学, 図書館情報学, その他の領域の知見から検討する. まず, 知識とは何かについて検討する. 知識の定義には, 内在主義と, それに批判的な外在主義がある. 知識の内在主義とは, 知識であるためには正当化が必要であり, かつ, 認識主体自身はその正当化理由にアクセス可能でなければならないという考えであり, 外在主義とはその否定である. 知識の定義を見た上で, 知識の共有について相対主義とその批判という視点から検討する. 次に, 情報とは何かについて検討する. 情報には様々な定義がなされている. まずそれらを概観した上で, 情報をモノのように捉える立場とモノではないとする立場について検討する. そして, 両者の立場をふまえて, 情報をモノとして見た場合の量的把握の方法, 情報とコミュニケーションおよびメディアとの関係についてみていく |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | 図書館情報メディア研究にとって基本的な概念である知識と情報について, それらの定義および関連する主要概念 (知識の共有, 情報量, メディア, コミュニケーションなど) の理解を深める。 |
| 授業計画 | 1) 知識の定義 担当:横山 幹子 2) 知識の定義の検討:内在主義と外在主義 担当:横山 幹子 3) 知識の共有:相対主義とその批判 1 担当:横山 幹子 4) 知識の共有:相対主義とその批判 2 担当:横山 幹子 5) 知識の共有:相対主義とその批判 3 担当:横山 幹子 6) 情報の様々な定義 担当:緑川 信之 7) 情報量 担当:緑川 信之 8) 情報概念の 2 つの立場 担当:緑川 信之 9) 情報とメディア 担当:緑川 信之 10) 情報とコミュニケーション 担当:緑川 信之 |
| 評価の方法 | 前半と後半の計 2 回のレポートに授業への参加度を加味して評価する。 |
| 教科書 | 適宜指示する。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 緑川 信之 随時 7D306 midorika at slis.tsukuba.ac.jp 横山 幹子 火 5 限 7D405 mikiko at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | システム思考 |
| 科目番号 | 01MB102 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 月 5,6 |
| 担当教員 | 真榮城 哲也, 宇陀 則彦, 歳森 敦 |
| 授業概要 | 対象物が、複数の要素から構成され、全体の性質が要素間の相互作用によって決定付けられると捉える視点の考え方や方法論、デザインについて解説する。また、手法の習得のための演習を行う。応用対象として自然界と社会の両者を扱う。 |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | システム思考の概念を説明できること モデル作成の意味を理解すること 対象物をシステム論的に理解する方法について説明できること |
| 授業計画 | 第 1 回概要, モデリング 1 第 2 回モデリング 2 第 3 回モデリング演習 第 4 回関係性・相互作用 1 第 5 回関係性・相互作用 2 第 6 回システムの挙動・創発・階層構造 第 7 回システム解析 第 8 回システム思考演習 第 9 回システム思考トピック 1 第 10 回システム思考トピック 2 |
| 評価の方法 | レポートと参加状況を総合的に判定する |
| 教科書 | 適宜指示する |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 真榮城 哲也 水 1・2 限 7D409 maeshiro at slis.tsukuba.ac.jp 宇陀 則彦 春(火 5) 秋(木 5) 7D210 uda at slis.tsukuba.ac.jp http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~uda/ 歳森 敦 水 9:30-11:30 7D114 tosimori at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | インターネットと法 |
| 科目番号 | 01MB103 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 火 5,6 |
| 担当教員 | 石井 夏生利 |
| 授業概要 | ネットワーク社会における新たな法的問題について一緒に考えていきます。インターネットが不可欠のインフラとなった現代社会では、プライバシー・個人情報保護、情報公開、著作権や不正競争行為などの知的財産権の侵害、架空請求などの消費者被害、不正アクセスなどのサイバー犯罪、インターネット上の権利侵害とプロバイダの責任、アダルトサイトなどの違法・有害コンテンツ等、様々な課題が存在します。これらの問題は情報セキュリティとも関連します。最近では、ライフログやクラウドコンピューティングにも注目が集まっています。そこで、ネットワークを利用するにあたって現実に直面することが多い問題を取り上げながら、皆さんにも発表してもらい、インターネット問題に対する法的対応を検討します。 |
| 備考 | 西暦奇数年度は英語で授業 講義科目 |
| 達成目標 | ネットワーク社会において生じている諸問題への対応を法的な観点から学ぶことによって、安全・安心なインターネット利用を行うために必要な理解力を身に付けることを目標とします。また、具体的問題の調査に基づくプレゼン形式で報告を行うことによって、現在生じている問題を身近なものとして認識してもらい、法的諸問題への対応だけでなく、技術的対策や自主的対策を含めた、インターネット社会の諸問題への対処方法について、自らの問題として考える機会となることを期待します。 |
| 授業計画 | この授業では、次の各テーマの中からいくつかを取り上げつつ、講義を行います。その際、最近生じている問題を取り上げ、ディスカッションを行います。 あわせて、受講生にも興味を持ったテーマを調査・発表してもらいます。 ・ガイダンス ・プライバシー権、個人情報保護法（マイナンバー法を含む） ・情報公開法、公文書管理法 ・著作権法、不正競争防止法（営業秘密） ・インターネット上の権利侵害と媒介者の責任 ・インターネットと消費者保護 ・サイバー犯罪 ・インターネット選挙 ・サイバーセキュリティ関係法 ・ネットワーク社会における法制度のあり方（情報セキュリティ関係の法制を含む） ・インターネットをめぐる最近の具体的事例 |
| 評価の方法 | 出席、講義への参加態度、プレゼンテーション、レポート等で総合評価します。ディスカッションに積極的に参加し、法的観点からの意見を多く述べた人を高く評価します。 |
| 教科書 | 教科書は指定しません。参考資料を適宜配布します。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 春学期木 3 限; 秋学期火 3 限 7D509 kaoriish at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | 知的財産の管理と利用 |
| 科目番号 | 01MB104 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 火 5,6 |
| 担当教員 | 村井 麻衣子 |
| 授業概要 | 知的財産の適切な管理と利用について理解するため、知的財産の基礎的事項を概観したうえで、知的財産に係る具体的な事例や法的課題などについて論究する。必要により履修者による関連裁判例・論文等の発表を行う。 |
| 備考 | 01DH327 と同一。 講義科目 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 知的財産制度の基礎を理解する ・ 知的財産をめぐる具体的な問題について検討し、自分なりの考察を行う ・ 知的財産の管理と利用に関する法的問題を理解し、適切な管理・利用方法を導く |
| 授業計画 | <p>知的財産制度の基礎的な事項を確認した上で、著作権法や特許法の現代的な課題や最近の事例を概観する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知的財産制度の概要 ・ 著作権法の現代的課題 ・ 特許法の現代的課題 ・ 知的財産に関する最近の事例 ・ プレゼンテーション |
| 評価の方法 | 主に出席、受講態度、プレゼンテーションによって評価を行う予定。 |
| 教科書 | 1. 田村善之『知的財産法』(第5版・有斐閣) |
| 参考書 | 1. 六法 |
| オフィスアワー | 春学期 金 15:15-16:15; 秋学期 火 15:15-16:15 7D506 myco at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | 図書館とメディアの歴史 |
| 科目番号 | 01MB105 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 木 1,2 |
| 担当教員 | 呑海 沙織, 後藤 嘉宏 |
| 授業概要 | 本科目では、メディアおよび図書館の歴史について学ぶ。前半ではメディア・書物の歴史を中心に論じ、後半では図書館に焦点をあてる。本科目の目的は、1) メディア、書物および図書館の歴史の流れを理解すること、2) メディア、書物および図書館を人的コミュニケーション、芸術、文化、政治、科学、教育といった広い文脈のなかで捉えること、3) メディア、書物および図書館の歴史を通じて、図書館を含めた情報メディアの未来を展望する洞察力を養うことである。講義形式で行うが、毎回討論を促す。 |
| 備考 | 西暦偶数年度は英語で授業 講義科目 |
| 達成目標 | 1) メディア、書物、図書館についての歴史的な理解を深める。 2) 歴史研究の方法の一端を知る。 |
| 授業計画 | 1) メディアの歴史の研究方法について (ガイダンスを含む) 2) メディアを通じた歴史区分 3) 古典古代の情報流通とメディア 4) 中世から近世・ルネサンスの情報流通とメディア 5) 近代及びそれ以降のメディア 6) 時間軸からみる図書館 7) 図書館の起源 8) ルネサンス期の図書館と活版印刷術 9) 近代公共図書館の成立 10) 歴史から考えるメディアと図書館の未来 |
| 評価の方法 | 最終レポートの評価 8 割:平常点 (質疑応答ないしは討論での発言の頻度・内容等)2 割 |
| 教科書 | なし |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 呑海 沙織 木 6 限 7D403 donkai at slis.tsukuba.ac.jp 後藤 嘉宏 春 AB 火 5 限; 春 C 水 3 限; 秋 AB 木 3 限; 秋 C 水 3 限 7D513 ygoto at slis.tsukuba.ac.jp http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~ygoto/index.html |
| その他 | 配付資料を配る場合には http://www.slis.tsukuba.ac.jp/resource/wiki/ にアップするので、各自ダウンロードして授業に臨むように (配るとは限らない)。 |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 情報探索と検索 |
| 科目番号 | 01MB106 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 木 1,2 |
| 担当教員 | 上保 秀夫 |
| 授業概要 | 本科目では, 人間と情報検索システムのインタラクションを中心に, 情報探索と検索の基礎的な理解を得る. 受講者は, サーチエンジンのアーキテクチャやインタフェース機能などのシステム面と, クエリ作成や適合性判定などの検索行動を含むユーザ面の関係を深く考察する機会が与えられる. さらに, 情報検索システムの評価手法においても, システム重視のものからユーザ重視のものまで取り上げる. 最後に, 高度なトピックや最新研究動向を紹介する. |
| 備考 | 西暦奇数年度は英語で授業 講義科目 |
| 達成目標 | 情報検索システムの仕組みと評価手法が説明できる. 情報検索行動の特徴を代表的なモデルを用いて説明できる. 検索行動と検索システムの関係を考察できる. 新しい情報検索サービス/システムを考案し, 評価計画を立てることができる. |
| 授業計画 | 1) ガイダンス 2) サーチエンジンの仕組み 3) テストコレクション 4) 検索行動の特徴 5) レlevance:適合性 6) クエリの表現手法 7) 検索結果の提示手法 8) 検索プロセスの管理 9) ユーザスタディ 10) 高度なトピックと最新動向 |
| 評価の方法 | 講義内レポート (9 回):70% 学期末レポート (1 回):30% |
| 教科書 | 教科書は指定しない. 必要な教材は授業で指示する. 受講者は事前に指定された論文や教材を精読してくること |
| 参考書 | 1. Case, D. O. (2012) Looking for Information: A Survey of Research on Information Seeking, Needs, and Behavior (3rd Ed.). Emerald Group Publishing. 2. Hearst, M. A. (2009) Search User Interfaces. MIT Press. 3. Kelly, D. (2009) Methods for evaluating interactive information retrieval with users. Now Publishers. 4. Ruthven, I. and Kelly, D. (Eds.)(2011) Interactive Information Seeking, Behaviour and Retrieval. Facet Publishing. |
| オフィスアワー | 木 5・6 限 7D408 hideo at slis.tsukuba.ac.jp http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~hideo/ |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | 情報行動論 |
| 科目番号 | 01MB107 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 水 1,2 |
| 担当教員 | 松林 麻実子 |
| 授業概要 | 1970 年代以降欧米を中心に議論されてきた個人の情報行動に関する理論・モデルを概観するとともに、現在主流となりつつある社会的文脈 (social context) を重視する研究アプローチについて学ぶことを目的とする。授業は講義形式を基本とするが、理解を深めることを目的として、適宜ディスカッションを行う。また、初回の授業時に指定文献リスト (英文献中心) を配布するので、それを読んだ上で受講してもらいたい。 |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | 1) 情報行動研究の系譜を知っている。 2) 情報行動研究における代表的な研究者の一連の研究に一通り目を通してしている。 3) 近年注目されている「社会的文脈」を重視した研究について意義を説明できる。 4) これまでに発表された理論やモデルを使って、実例 (自分の日常的な情報行動など) を分析することができる。 |
| 授業計画 | 1) イントロダクション 2) 情報行動研究における利用者志向アプローチの全体的傾向 3) 利用者志向アプローチ各論 [1] 意味付与アプローチ (Dervin) 4) 利用者志向アプローチ各論 [2] 情報探索過程モデル (Kuhlthau) 5) 認知的アプローチ各論:とその修正 (Brookes, Ingwersen) 6) 情報行動研究における理論統合 (Wilson) 7) 情報行動研究における社会構築主義的アプローチの理論的基盤 8) 社会構築主義的アプローチ各論 [1] 情報実践モデル (Savolainen) 9) 社会構築主義的アプローチ各論 [2] 専門家の情報行動 (Sundin, etc.) 10) まとめ |
| 評価の方法 | 1) 授業への出席状況,2) 授業中に行うディスカッションへの参加状況,3) 学期中に課すレポート (2 回程度を予定),4) 学期末に行うプレゼンの 4 点から総合的に評価する。 |
| 教科書 | 特に指定しない。 |
| 参考書 | 1. Theories of Information Behavior. ASIST Monograph series, Information Today, Inc., 2005. |
| オフィスアワー | 金 9:30-11:30 7D111 mamiko at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | 要求分析とプロジェクト管理 |
| 科目番号 | 01MB109 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 金 1,2 |
| 担当教員 | 手塚 太郎 |
| 授業概要 | 大規模ソフトウェア開発において重要な役割を占める要求分析ならびにプロジェクト管理について、多数の方法論を具体例として挙げ、その必要性と特性について述べる講義を行う。 |
| 備考 | 西暦奇数年度は英語で授業 講義科目 |
| 達成目標 | 大規模なソフトウェアを開発するにあたってどのような方法論が存在し、それらがどのような必要性から提案されてきたのかを理解することで、実践の場において求められる基礎的な知識を習得することを目標とする。 |
| 授業計画 | <p>要求分析においては要求仕様化の代表的な手法である構造化分析とオブジェクト指向分析について学ぶ。後者に対する理解を深めるため、オブジェクト指向プログラミング言語である Java の演習を通してその考え方について学ぶ。また、UML モデリングツールを用いた UML の各種の図の作成について学ぶ。</p> <p>プロジェクト管理においては開発工数の見積もりや日程計画の手法について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 要求分析の必要性と課題 2) 要求仕様化 3) 構造化分析 4) オブジェクト指向分析 (Java 演習) 5) オブジェクト指向分析 (Java 演習) 6) オブジェクト指向分析 (UML 演習) 7) プロジェクト管理の必要性と課題 8) ソフトウェアの開発工程/開発工数の見積もり手法 9) 日程計画/品質管理 10) まとめ |
| 評価の方法 | レポート |
| 教科書 | |
| 参考書 | <p>授業に必要な資料を配付する。以下の参考書を読むのも良い。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報工学レクチャーシリーズ ソフトウェア工学, 高橋直久・丸山勝久, 森北出版 ; ISBN: 978-4-627-81061-7 2. 独習 UML 第 4 版, テクノロジックアート, 翔泳社 ; ISBN: 978-4-798-11854-3 3. プログラム仕様記述論, 荒木啓二郎・張漢明, オーム社 ; ISBN: 978-4-274-13263-3 4. 演習と実例で学ぶプロジェクトマネジメント入門, 中川正樹・飯尾淳, ソフトバンククリエイティブ ; ISBN: 978-4-7973-5559-8 |
| オフィスアワー | 春学期 月 5・6 限; 秋学期 水 4・5 限 7D215 tezuka at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | テクニカルコミュニケーション |
| 科目番号 | 01MB110 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 火 5,6 |
| 担当教員 | 三波 千穂美 |
| 授業概要 | 現代社会において、専門家は、自らの専門分野について説明する「説明責任」を果たさなければならない。とりわけ、自らの専門分野・研究と社会がどのように関連するかについての「説明」は重視される。本科目では、伝達内容が専門的・技術的なコミュニケーションであるテクニカルコミュニケーションについて解説する。さらに、テクニカルコミュニケーションの「場」や「方法」について体得するため、受講者各々の専門分野の興味深さや社会における重要性を一般市民に伝え、同時に、市民の反応の聴きとりについて実践することを目的に、プレゼンテーション演習およびテクニカルコミュニケーションイベントを行う。 |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・テクニカルコミュニケーションを理解する ・テクニカルコミュニケーションを設計・実現する ・テクニカルコミュニケーション能力を向上させる ・テクニカルコミュニケーションの場を設定できる ・テクニカルコミュニケーションの場を運営できる |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) テクニカルコミュニケーション 2) テクニカルコミュニケーション手法としてのプレゼンテーション・質疑応答 3) プレゼンテーション演習 1 4) プレゼンテーション演習 2 5) テクニカルコミュニケーションの企画・構成・表現 6) プレゼンテーション演習 3 7) テクニカルコミュニケーションの場の企画・設定・運営 8) テクニカルコミュニケーションイベントの企画・広報 9) テクニカルコミュニケーションイベントの準備 10) テクニカルコミュニケーションイベントの実施 |
| 評価の方法 | 授業時の課題、参加状況、プレゼンテーション、出席などにより総合的に評価する。 |
| 教科書 | |
| 参考書 | 1. サイエンスコミュニケーション「科学を伝える 5 つの技法」(日本評論社) |
| オフィスアワー | |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 情報メディア演習 B-1 |
| 科目番号 | 01MB151 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1 年次 |
| 時間割 | 春 C 月・木 5,6 |
| 担当教員 | 三河正彦 他 |
| 授業概要 | 学術研究には、学術研究の方法論があり、研究を効率的に進めるためにはこうした方法論を身につけている必要がある。本演習科目においては、受講生が、研究分野について知る方法、学術論文のまとめ方、アカデミアのルールなどを、実習を通じて実践的スキルを獲得することをめざす。本演習科目は、トピックにおうじて複数の教員が担当する形式で実施する。 |
| 備考 | 演習科目 |
| 達成目標 | 研究方法に関する具体的スキルを獲得する。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 2) 研究倫理:小グループに分かれて、研究倫理の問題について討論のうえ、グループごとに発表する 3)KJ 法:KJ 法の方法論を学び、小グループで問題の構造化を行う 4)KJ 法 5) 先行研究と文献レビュー:先行研究の批判的吟味と整理により研究の位置付けを明確にする方法を学ぶ 6) 先行研究と文献レビュー 7) 論理トレーニング:具体的な課題を用いて、論理力を身につける方法を学ぶ 8) 論理トレーニング 9) アブストラクト:学術論文の役割や要素を解説し、構造化抄録などの手法を用いて、よりの確かなアブストラクトを作る術を学ぶ 10) アブストラクト 11) 情報メディア演習 C のガイダンス |
| 評価の方法 | 各トピックごとに課題を課し、総合点により評価する。 |
| 教科書 | |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | |
| その他 | 第 1 回と第 11 回は 7A201 にて行う。 |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 情報メディア演習 B-2 |
| 科目番号 | 01MB152 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1 年次 |
| 時間割 | 春 C 月・木 5,6 |
| 担当教員 | 三河正彦 他 |
| 授業概要 | 学術研究には、学術研究の方法論があり、研究を効率的に進めるためにはこうした方法論を身につけている必要がある。本演習科目においては、受講生が、研究分野について知る方法、学術論文のまとめ方、アカデミアのルールなどを、実習を通じて実践的スキルを獲得することをめざす。本演習科目は、トピックにおうじて複数の教員が担当する形式で実施する。 |
| 備考 | 演習科目 |
| 達成目標 | 研究方法に関する具体的スキルを獲得する。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 2) KJ 法: KJ 法の方法論を学び、小グループで問題の構造化を行う 3) KJ 法 4) 論理トレーニング: 具体的な課題を用いて、論理力を身につける方法を学ぶ 5) 論理トレーニング 6) 研究倫理: 小グループに分かれて、研究倫理の問題について討論のうえ、グループごとに発表する 7) アブストラクト: 学術論文の役割や要素を解説し、構造化抄録などの手法を用いて、よりの確なアブストラクトを作る術を学ぶ 8) アブストラクト 9) 先行研究と文献レビュー: 先行研究の批判的吟味と整理により研究の位置付けを明確にする方法を学ぶ 10) 先行研究と文献レビュー 11) 情報メディア演習 C のガイダンス |
| 評価の方法 | 各トピックごとに課題を課し、総合点により評価する。 |
| 教科書 | |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | |
| その他 | 第 1 回と第 11 回は 7A201 講義室にて行う。 |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 情報メディア演習 C-1 |
| 科目番号 | 01MB153 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 木 5,6 |
| 担当教員 | 中井 央 |
| 授業概要 | 各受講者が自分の研究についての発表を行い, それに対して, 授業担当教員と受講者全員でプレゼンテーションの仕方について議論を行う. |
| 備考 | 演習科目 |
| 達成目標 | この演習を行うことによって、研究の内容をどのように効果的にプレゼンテーションするかを学ぶ。また、研究の過程でどのような点に注意すべきかを改めて確認するとともに、自己の意見を表明し、議論を行う際の注意点を学ぶ。 |
| 授業計画 | 受講者は学期中に 2 回発表を行う。 受講者全員で議論を行う。 発表の順序は授業開始前に掲示する。 |
| 評価の方法 | プレゼンテーションの内容・方法とともに、それに対するコメントに対しても評価の対象とする。 |
| 教科書 | 特になし |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 春 学 期 火 曜 5 限、秋 学 期 木 曜 4 限 nakai at slis.tsukuba.ac.jp http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~nakai |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | 情報メディア演習 C-2 |
| 科目番号 | 01MB154 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 木 5,6 |
| 担当教員 | 松本 浩一 |
| 授業概要 | 受講者が、各自で進めている研究について発表を行い、その発表に対して担当教員と受講者全員が、研究の進め方や資料の扱い方、調査の進め方、プレゼンテーションの方法などについて議論を行う。 |
| 備考 | 演習科目 |
| 達成目標 | この演習を行うことによって、研究の内容をどのように効果的にプレゼンテーションするかを学ぶ。また資料の扱い方など、研究の過程でどのような点に注意すべきかを改めて確認するとともに、自己の意見を表明し、議論を行う際の注意点を学ぶ。 |
| 授業計画 | 受講者は学期中に 2 回発表を行い、受講者全員で議論を行う。 発表の順番は授業開始前に掲示する。 |
| 評価の方法 | プレゼンテーションの内容・方法とともに、それに対するコメントに対しても評価の対象とする。 |
| 教科書 | 特になし |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 問題記述と形式化 |
| 科目番号 | 01MB201 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 月 1,2 |
| 担当教員 | 鈴木 伸崇, 中井 央 |
| 授業概要 | 現実世界の様々な問題を計算機によって解決するには, 問題を適切に捉えて形式化する必要がある. 本講義では, この形式化のために必要となる, XML データに関する形式的記述・操作方法, 正規表現を始めとする形式言語理論やその応用としての人工言語などについて解説する. |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | 木構造や XML データに関する形式的記述・操作方法が理解できるようになる。正規表現の原理と、人工言語についての基礎およびその応用として人工言語の処理系の作成方法を理解することができるようになる。 |
| 授業計画 | 1) 木文法と XML のスキーマ言語 (1) 担当:鈴木 伸崇 2) 木文法と XML のスキーマ言語 (1) 担当:鈴木 伸崇 3) 木文法と XML のスキーマ言語 (2) 担当:鈴木 伸崇 4) 木文法と XML のスキーマ言語 (2) 担当:鈴木 伸崇 5) 木オートマトンと妥当性検証 担当:鈴木 伸崇 6) 木オートマトンと妥当性検証 担当:鈴木 伸崇 7) 木変換機と XSLT 担当:鈴木 伸崇 8) 演習 担当:鈴木 伸崇 9) プログラミング言語処理系の概要 担当:中井 央 10) 正規表現と字句解析 担当:中井 央 11) 文脈自由文法と構文解析の概要 担当:中井 央 12) 再帰的下向き構文解析 担当:中井 央 13) 演習 |
| 評価の方法 | レポート課題に基づいて評価を行う。 |
| 教科書 | 第 1-5 回は、授業時に資料を配布する 第 6-10 回は、下記 Web ページから資料を配布する |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 鈴木 伸崇 金 6 限 7D204 nsuzuki at slis.tsukuba.ac.jp http://nslab.slis.tsukuba.ac.jp/~nsuzuki/ 中井 央 春学期火曜 5 限、秋学期木曜 4 限 nakai at slis.tsukuba.ac.jp http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~nakai |
| その他 | 中井担当分は実習室 II(7C103) で行う Web ページ: http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~nakai/2014/01MB201/ |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | 自然言語処理 |
| 科目番号 | 01MB202 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 金 5,6 |
| 担当教員 | 関 洋平, 若林 啓 |
| 授業概要 | この講義では, 新聞記事, Web テキスト等の日常言語で書かれたテキスト (コーパス) を対象とした情報アクセス技術 (情報抽出, テキスト分類等) を実現するための計算機上の言語処理技術 (品詞タグ付, 構文解析, 機械学習) およびその基礎理論について講義と演習を行う。 |
| 備考 | 西暦偶数年度は英語で授業 講義科目 |
| 達成目標 | 自然言語処理の実践的なアプリケーションを実現する。 |
| 授業計画 | ノートパソコンを各自で持ち込み, NLTK, Python の環境をインストールして, 講義と演習を通じてアプリケーションを実現する。 |
| 評価の方法 | NLP 応用システムの設計・実装のためのプレゼンテーション 2 回, ならびに最後のレポート 1 回を通して評価します。 |
| 教科書 | 1. Steven Bird, Ewan Klein, Edward Loper: Natural Language Processing with Python O' Reilly & Associates Inc (2009/6/30) |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | |
| その他 | http://cu.slis.tsukuba.ac.jp/class/nlp2015/ (予定) |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | データ工学特論 |
| 科目番号 | 01MB203 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 金 1,2 |
| 担当教員 | 森嶋 厚行, 佐藤 哲司 |
| 授業概要 | データ工学・データベース分野における高度なトピックスおよび最先端技術などについて説明する。授業は講義および議論などで構成される。 |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | ユーザとしての DBMS の利用に関する知識レベルではなく、データベースおよびデータ工学分野における理論と先端技術に関して深く理解することによって、直面した問題に対してデータ工学的な視点、技法を用いて問題解決を行うことができるようになる。 |
| 授業計画 | 第 1 回イントロダクション 第 2 回データベース設計の理論 第 3 回トランザクションの理論 第 4 回論理データベース 1 第 5 回論理データベース 2 第 6 回問合せ処理と最適化 第 7 回データ格納とインデックス 第 8 回障害回復 第 9 回まとめ 第 10 回試験 |
| 評価の方法 | 授業中のレポートおよび試験による。 |
| 教科書 | 1. Hector Garcia-Molina, Jeff Ullman, and Jennifer Widom “ Database Systems: The Complete Book ” 2. Ramakrishnan, R. et al “ Database Management Systems ” |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 森嶋 厚行 月 11:30-12:30 7D507 amorishima at acm.org http://www.kc.tsukuba.ac.jp/~mori/ 佐藤 哲司 水 1 限 7D205 http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~satoh/index-j.html |
| その他 | 履修者は下記条件を満たすこと: ・DBMS の利用者としての知識 (SQL による問合せ作成やトランザクションの利用など, 学部レベルの知識) に関して一通り理解していること. ・手続き型プログラミングに関して, 学部卒業レベルの知識とスキルを持つこと |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | データサイエンス |
| 科目番号 | 01MB204 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 金 5,6 |
| 担当教員 | 田村 肇, 時井 真紀, 長谷川 秀彦 |
| 授業概要 | 図書館情報学の研究においても, 統計データの処理が年々重要になっている. このような統計データを扱う学問を総称して, 最近ではデータサイエンスと呼んでいる. 本講義前半 4 回では, 多変量解析を中心に, データサイエンスの重要な手法を解説する. 中 3 回では, データから知識を生み出す機械学習によるデータの分類法を紹介し, 後半 3 回では, データを処理し, 体系化した情報を提示する方法について紹介する. |
| 備考 | 2015 年度開講せず。 講義科目 |
| 達成目標 | 統計解析のツールが正しく使えるようになる。 機械的学習の考え方をマスターする。 大規模データの扱いが的確にできるようになる。 |
| 授業計画 | 1) 【10 月 2 日 田村 肇 図書館情報メディア系 tamura@slis.tsukuba.ac.jp】 はじめに 独立、相関、因果関係 2) 【10 月 9 日 田村 肇 図書館情報メディア系 tamura@slis.tsukuba.ac.jp】 R 言語の使い方 3) 【10 月 16 日 田村 肇 図書館情報メディア系 tamura@slis.tsukuba.ac.jp】 線形回帰分析の理論、応用 4) 【10 月 23 日 田村 肇 図書館情報メディア系 tamura@slis.tsukuba.ac.jp】 非線形回帰分析、主成分分析 5) 【10 月 30 日 時井 真紀 図書館情報メディア系】 カーネル法 6) 【11 月 13 日 時井 真紀 図書館情報メディア系】 SVM(Support vector machine)(1) 7) 【11 月 20 日 時井 真紀 図書館情報メディア系】 SVM(Support vector machine)(2) 8) 【12 月 4 日 長谷川 秀彦 図書館情報メディア系】 Latent Semantic Indexing 9) 【12 月 11 日 長谷川 秀彦 図書館情報メディア系】 Google's Page Rank 10) 【12 月 18 日 長谷川 秀彦 図書館情報メディア系】 MapReduce |
| 評価の方法 | 前半 4 回、中 3 回: 出席とレポートにより評価する。 後半 3 回: プロジェクト:実データに対して自分で分析・検討を行う。 |
| 教科書 | 使用しない。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 田村 肇 水 10:00-11:30 7D311 tamura at slis.tsukuba.ac.jp 時井 真紀 月 4 限 7D203 tmaki at slis.tsukuba.ac.jp 長谷川 秀彦 月 14:00-16:00 7B213 (学類長室) hasegawa at slis.tsukuba.ac.jp http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~hasegawa/ |

| | |
|-----|---|
| その他 | <p>前半 4 回:学部の統計学で扱う「分布」、「推定」、「検定」といったキーワードを理解していることが望ましいが、これらの予備知識が無い場合は、読むべき参考書を指示するので、事前に田村まで問い合わせること。</p> <p>中 3 回、後半 3 回:特別な予備知識は仮定しない。</p> |
|-----|---|

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | セマンティックウェブ |
| 科目番号 | 01MB205 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 火 1,2 |
| 担当教員 | 阪口 哲男, 永森 光晴 |
| 授業概要 | インターネットやデジタル図書館では, 情報資源の発見から利用にいたる過程で情報資源に関する情報の記述, すなわちメタデータが利用されている. セマンティックウェブはメタデータを利用して, 現在のウェブの延長線上に, コンピュータがより人間を助けられる情報空間を構築しようという試みである. 授業では, まずメタデータに関する解説を行い, その後, 議論を通じてセマンティック Web やメタデータ技術に関連したこの研究分野の技術の理解を進める. |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | セマンティックウェブの基礎概念を理解する メタデータを記述するための枠組みである RDF と RDF スキーマを理解し、メタデータを記述できるようになる OWL(Web Ontology Language) を利用したオントロジーの表現 |
| 授業計画 | 1) セマンティックウェブに関する概説 2) セマンティックウェブの基礎 3)XML と XPath(XML Path Language) 4)RDF(Resource Description Framework) 5)RDF スキーマ 6)OWL(Web Ontology Language) 7) 推論 8) オントロジーの構築 9) セマンティックウェブの実践例 10) まとめ |
| 評価の方法 | 授業内での発表と議論への参加による |
| 教科書 | 資料を配布 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | インフォメトリクス |
| 科目番号 | 01MB206 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 金 3,4 |
| 担当教員 | 芳鐘 冬樹 |
| 授業概要 | 論文の発表数や引用数のような計量情報学的データに基づいて、論文生産性や、共著・引用ネットワークにおける中心性など、学術情報の生産活動の現状を評価する際に問題となるのが、低頻度の事象が大部分を占めるというデータの特質である。例えば、ある分野の論文集合をデータとした場合、その分野の論文を数編しか発表していない周辺の研究者が全体の大部分であり、その分野の論文を数編しか掲載していない周辺の雑誌が大部分である。それら低頻度の事象の存在が問題となる所以は、対象の特徴を指標で測るとき、指標の値が標本量に依存して系統的に変化してしまい、信頼できる母集団推定が不可能になるという点にある。そうしたデータの特質と、それを踏まえた統計分析・ネットワーク分析の枠組みについて学習する。 |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | 論文の発表数や引用数のような計量情報学的データの特質と、それを踏まえた統計分析・ネットワーク分析の枠組みについて理解することを目標とする。 インフォメトリクスの手法を用いた研究の流れ(問題設定, データ抽出・整形, 分析, 結果の解釈)を理解し, 実際に行えるようにする。 |
| 授業計画 | 1) インフォメトリクスの基本的問題:壺のモデルと Lotka 型データ 2) 統計量の標本量依存性 3) 成長率とランダム・サブサンプリング 4) 二項補間・補外 5) LNRE モデル 6) ネットワークの特徴量 7) Barabasi-Albert モデル 8) ネットワークの「成長」モデルと、統計量の「標本量依存性」の関係 9) 実際のデータを用いた実習をまじえつつ、生産性やインパクト、ネットワークにおける中心性などを分析・評価する際、データの特質がどのように結果に影響を及ぼしうるかに関して議論する。(～第 10 回) |
| 評価の方法 | 毎週出題するレポート課題(計 9 回), および最終テストによる。 |
| 教科書 | |
| 参考書 | 1. 影浦峽. 計量情報学:図書館/言語研究への応用. 丸善,2000 2. 増田直紀・今野紀雄. 複雑ネットワーク:基礎から応用まで. 近代科学社, 2010 |
| オフィスアワー | |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | コンテンツ制作論 |
| 科目番号 | 01MB207 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 木 3,4 |
| 担当教員 | 西岡 貞一 |
| 授業概要 | コンテンツとは何かについて文化、産業、技術、制度といった4つの視点から議論する。デジタルメディア・コンテンツに関する研究動向を学び、研究テーマ立案やアイデア創造のヒントとする。 |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | コンテンツ制作に必要な基礎知識を整理する。 コンテンツ制作研究に関する方法論を理解する。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 2) コンテンツの過去・現在・未来 (メディアの連鎖) 3) コンテンツ制作のワークフロー (プロデュース) 4) メディアリテラシー 5) 非エンターテインメント・コンテンツ (教育、ミュージアム) 6) メディア・コンテンツ研究のための基礎知識 7) メディア・コンテンツ研究の方法論 8) メディア・コンテンツ研究レビュー 9) メディア・コンテンツ研究の研究計画立案 10) まとめ |
| 評価の方法 | 講義毎のミニレポートや授業への参加性を基に総合的に評価する |
| 教科書 | 授業中に随時資料を配布する |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 音声・音響メディア処理 |
| 科目番号 | 01MB208 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 木 1,2 |
| 担当教員 | 寺澤 洋子 |
| 授業概要 | 講義, 文献調査, ディスカッションなどを通じて音響・音声・音楽に関する研究分野を幅広く学び, その中から興味を抱いた分野を学生自身が選び知識を深めます。授業で触れる研究分野は, 音響学, 音響合成・デザイン・可聴化, 音響心理学および音楽心理学, コンピュータ音楽, 音楽データベース・アーカイブ, 音楽図書館などの分野を想定していますが, それ以外のトピックも要望に応じて扱います。 |
| 備考 | 西暦偶数年度は英語で授業 講義科目 |
| 達成目標 | この授業では,(1) 音響学・音楽科学研究について幅広く入門的知識を得ること (2) 学生自身が興味を抱いた領域における知識を深めること, を目標とします。 |
| 授業計画 | 授業の前半では, 音響学, 音響合成・デザイン・可聴化, 音響心理学および音楽心理学, コンピュータ音楽, 音楽データベース・アーカイブ, 音楽図書館などの入門的知識を講義とディスカッションによって学びます。 後半では, 履修している学生の興味に合わせて授業を進めます。文献調査やプロジェクトを通じて, 知識を深めます。 2014 年度は英語,2015 年度は日本語での授業となります。当該言語が苦手な場合, 必要に応じて補足説明等を行います。 Academic year 2014: taught in English. AY 2015: taught in Japanese. The instructor is fluent both in English and Japanese, and ready to provide language support in class. |
| 評価の方法 | 出席, 議論への積極的な参加, クラスへの貢献, 期末プロジェクト (レポートおよび発表) を総合的に評価します。 |
| 教科書 | 参考文献は授業内で適宜紹介します。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | |
| その他 | 講義資料等の Web Page の URL: 準備中 |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | 画像・映像メディア処理 |
| 科目番号 | 01MB209 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 木 3,4 |
| 担当教員 | 藤澤 誠, 松本 紳 |
| 授業概要 | 画像や映像情報は、写真やビデオ等のパーソナルユースから工業や医療分野における自動計測など様々な分野で幅広く利用されている。またインターネット上には莫大な画像・映像情報が氾濫しており、これらの中から有意義な情報を抽出するためには、今後ますます、画像・映像処理技術が重要となってくる。本講義では、コンピュータによる画像・映像メディアの生成、加工や機械学習の概念、認識技術について学ぶ。また、これらの応用や関連する諸技術についても学ぶ。講義形式を中心とするが、必要に応じて演習も取り入れる。 |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 画像処理に必要な基礎概念を理解する ・ 画像解析の手法を理解する ・ 画像生成 (CG) の手法を理解する ・ 画像・映像処理の応用を知る |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション、画像・映像処理の基本概念 2) 画像情報の圧縮 3) 画像補正・再構成 4) 2 値画像処理 5) パターン認識 6) 画像生成と CG の基礎 7) CG(モデリング) 8) CG(レンダリング) 9) CG(アニメーション・シミュレーション) 10) CG および画像処理の応用技術 |
| 評価の方法 | 筆記試験、毎週講義中に行うミニレポートによる |
| 教科書 | |
| 参考書 | 1. 田村秀行「コンピュータ画像処理」オーム社 |
| オフィスアワー | 藤澤 誠 fujis at slis.tsukuba.ac.jp http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~fujis/ 松本 紳 月 10:00-11:30 7B318 (系長室) 8-1000 amy at slis.tsukuba.ac.jp http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~amy/ |
| その他 | 線形代数、確率・統計学、微積分の基礎的な知識があることが望ましい |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 認知科学特論 |
| 科目番号 | 01MB210 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 月 3,4 |
| 担当教員 | 平賀 謙, 森田 ひろみ |
| 授業概要 | 学際的研究領域である認知科学に関する専門的なトピックをいくつか取り上げ、講義する（一部、学生が論文を担当して発表することもあり得る）。取り上げる内容は、人間の認知過程に対する計算論的モデル化や心理学的研究の中から適宜選択し、実際の研究動向を知るだけでなく、それぞれのアプローチにおける研究手法や背景にある考え方なども学ぶ。背景として、コンピュータ科学（人工知能）、心理学（主に実験系心理学）をはじめ、言語学、哲学等で人間の認知過程と関わりのある研究分野についての学部レベルの基礎知識を有し、関連文献、できれば専門書や研究論文などを講読した経験のあることが望ましい。 |
| 備考 | 西暦偶数年度は英語で授業 講義科目 |
| 達成目標 | 1) 人間の高度な認知処理過程を計算論的観点から分析・モデル化する研究アプローチの基礎を理解する。 2) 具体的な対象として、音楽の認知過程やゲーム・パズル等の問題解決過程などでの研究例を紹介し、研究状況を把握する。 3) 視覚的注意、物体認知、手続き記憶等に関する最近の認知心理学的研究を理解する。 |
| 授業計画 | 1) 人間の認知過程の計算論的モデル化の意義と役割（概論） 2) 人間の認知過程の計算論的モデル化の意義と役割（概論） 3) モデル化の具体例（各論） - 音楽認知やゲーム・パズル等での問題解決過程を題材として - 4) モデル化の具体例（各論） - 音楽認知やゲーム・パズル等での問題解決過程を題材として - 5) モデル化の具体例（各論） - 音楽認知やゲーム・パズル等での問題解決過程を題材として - 6) 人間の認知過程に関する心理学的知見の解説（概論 I） 7) 人間の認知過程に関する心理学的知見の解説（概論 II） 8) 人間の認知過程に関する最近の心理学的研究の紹介（各論 I） 9) 人間の認知過程に関する最近の心理学的研究の紹介（各論 II） 10) 人間の認知過程に関する最近の心理学的研究の紹介（各論 III） 11) 試験またはレポート提出 |
| 評価の方法 | 出席、授業に対する積極的態度、および試験またはレポートにより評価する。 詳細は初回講義で説明する。 |
| 教科書 | 教科書は特に指定しない。 |
| 参考書 | 参考書や論文等は講義の中で適宜紹介する。 |
| オフィスアワー | |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | ヒューマンコンピュータ・インタラクション |
| 科目番号 | 01MB211 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 月 1,2 |
| 担当教員 | 井上 智雄, 三河 正彦 |
| 授業概要 | 本科目では, ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI) について講義する. より円滑でインテリジェントなインタラクションを実現するために必要となる HCI の基本的な考え方や要素技術, 最新動向, ロボットやインテリジェントシステムで用いられるコンピュータビジョン, 人間のコミュニケーションや情報共有を支援するグループウェア, エンターテインメントコンピューティング等, 広く取り扱う. |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | ヒューマンマシンインタラクションを実現するシステムを構築するのに必要な要素技術の基本原則、利用の仕方がわかる。 ヒューマンマシンインタラクションを実現するシステムの最新動向がわかる。 システムがどのように利用されているかがわかる。 |
| 授業計画 | 1) イントロダクション 2) ヒューマンコンピュータインタラクションの基礎 3) ヒューマンコンピュータインタラクションの基礎 4) システム構築のための要素技術と最新動向 I (センサ) 5) システム構築のための要素技術と最新動向 II (入出力デバイス) 6) システム構築のための要素技術と最新動向 III (ソフトウェア技術) 7) システムの設計・構成 8) システムの設計・構成 9) ヒューマンコンピュータインタラクションの利用 10) まとめ |
| 評価の方法 | レポートによる。 |
| 教科書 | 授業時に紹介、あるいは配布する。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 井上 智雄 http://inolab.slis.tsukuba.ac.jp/ 三河 正彦 mikawa at slis.tsukuba.ac.jp http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~mikawa/index.html |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | 情報デザイン |
| 科目番号 | 01MB212 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 月 5,6 |
| 担当教員 | 金 尚泰 |
| 授業概要 | グラフィックデザイン手法を用いた情報デザイン表現は、多様な情報を発信していくための重要な手段の一つである。本講義では、ビジュアルコミュニケーションデザインの視点からグラフィックデザイン手法と 3DCG 技術の理解を目標とする。特に「概念の視覚化」に注目し、2D/3D コンピュータグラフィックスを用いたインフォグラフィックス表現を体験する。 |
| 備考 | 2015 年度開講せず。 講義科目 |
| 達成目標 | 芸術・デザインの知見から、情報表現の仕組みを理解する。2D/3D コンピュータグラフィックス全般の知識とデザイン手法を基盤とし、インフォメーショングラフィックス表現に関して議論ができるスキルを養う。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 「ガイダンス」:授業内容・事前調査項目等の説明 2) 「研究紹介・プレゼンテーション (1)」:データと情報の違いを明確にし、情報として扱うための表現法、情報の読み取りかたを議論する。 3) 「研究紹介・プレゼンテーション (2)」:データと情報の違いを明確にし、情報として扱うための表現法、情報の読み取りかたを議論する。 4) 「データから情報へ」:デザイン手法の考え方、応用例を解説するとともにデザイン要素として用いられるアフォーダンス、色彩、レイアウト、黄金比を理解する。 5) 「アイデアスケッチから図版制作」:2D/3D コンピュータグラフィックスアプリケーションの種類、夫々の考え方、使い方を理解することで、効率よい作業の流れを把握する。 6) 「研究内容のインフォグラフィックス制作」:企画、制作、発信までのプロセスを体験。データの整理、表現方法、各要素の応用を含むインフォグラフィックスデザイン全般の流れを理解する。 7) 「3DCG での表現 (1)」:3DCG ソフトウェアの理解・制作とともに表現する情報のプライオリティや表現方法を考察する。 8) 「3DCG での表現 (2)」:3DCG ソフトウェアの理解・制作とともに表現する情報のプライオリティや表現方法を考察する。 9) 「インフォメーショングラフィックス制作」グラフィックデザイン手法と 3DCG を用いたインフォメーショングラフィックス制作とその活用方法を議論する。 10) 「今後の展望とまとめ」 |
| 評価の方法 | 授業において理解を確認するための小テスト、2 回程度のレポート提出により評価を行う。 |
| 教科書 | <ol style="list-style-type: none"> 1. NTT インターコミュニケーション編集委員会:マルチメディア社会と変容する文化、NTT 出版株式会社、1997。 2. リチャード・S・ワーマン (著) 松岡正剛 (訳):情報選択の時代、日本実業出版社、1994。 3. リチャード・S・ワーマン (著) 金牛哲夫 (訳):それは「情報」ではない、エムディエヌコーポレーション、1998。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 秋 AB 月 3,4 |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | ユビキタスコンピューティング |
| 科目番号 | 01MB213 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 火 1,2 |
| 担当教員 | 川原崎 雅敏 |
| 授業概要 | インターネットの急速な普及により通信とコンピュータの融合が進み, さらにワイヤレス通信や RFID タグ (非接触 IC カード) の普及が相まって, 我々はネットワーク化された多様な情報機器に囲まれてビジネスや日常生活を営んでいる. 本講義ではこのようなユビキタス社会を実現する基本技術をモバイル, ネットワーク, クラウド等をキーワードとして論じる. |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | 遍在するコンピュータ同士が自律的に連携して人間生活をバックアップするユビキタスコンピューティングには, どのような形態があり, それらがどのような原理や技術で実現されているかを理解する. さらに事例研究を通じて, それらが社会に及ぼすインパクトを把握する。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) ユビキタスコンピューティングの進展 2) モバイルネットワーク, モバイルインターネット 3) ワイヤレスアクセス技術 4) RFID とセンサーネットワーク 5) 分散システム 6) クラウドコンピューティング 7) ユビキタスコンピューティングの利用動向と社会的インパクト 8) 事例調査, 発表・討論 9) 事例調査, 発表・討論 10) 事例調査, 発表・討論 |
| 評価の方法 | 複数回のレポート及びその発表により評価する。 |
| 教科書 | |
| 参考書 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 松下温, 他「ユビキタスコンピューティング」オーム社, 2009 年 2. A.S. タネンバウム, 他「分散システム (第二版)」2009 年 |
| オフィスアワー | mkawa at slis.tsukuba.ac.jp http://mkawa.slis.tsukuba.ac.jp/ |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 情報技術とビジネス |
| 科目番号 | 01MB214 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 C 集中 |
| 担当教員 | 木暮 啓, 湯川 朋彦 |
| 授業概要 | マスメディアと言われるテレビや新聞から、インターネットに至るまでの広範な情報メディアビジネスを概観する。加えて、情報メディアビジネスの基本的な枠組みや構成要素を理解するとともに、情報技術が社会に与える影響等を踏まえて近未来像も検討する。 |
| 備考 | 7/10,7/14,7/17,7/28,7/31(いずれも 3~6 時限) 講義科目 |
| 達成目標 | 情報メディアビジネスの仕組みや、競争優位の源泉に対する知見を通じて、情報メディアビジネスへの理解を深めることができる。 |
| 授業計画 | 1) 広告概論 2) 企業の社会的責任とコミュニケーション 3) ユビキタス社会と環境問題 4) 未来社会のシナリオ作成 5) 市民社会における情報メディアの役割 6) 情報財の基本特性、広告コミュニケーションの基本 7) 情報メディアビジネスの基本構造、映画ビジネス・通信ビジネスを例に 8) マーケティング概論 9) コミュニケーションの変遷 (歴史的視点から) 10) 情報産業の変遷 (産業的視点から) 11) 情報社会の変遷 (政策的視点から) |
| 評価の方法 | 出席状況ならびにレポート内容精査 |
| 教科書 | 特になし |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | |
| その他 | 二人の講師が分担して実施。一部分だけの受講では単位は授与できません。 |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 先端情報技術 |
| 科目番号 | 01MB215 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 水 5,6 |
| 担当教員 | 植芝 俊夫, 喜多 泰代, 児島 宏明, 佐藤 雄隆, 梶谷 勇 |
| 授業概要 | 画像や音声などのメディア処理や生体信号処理技術について、福祉分野への応用を中心に、近年の研究動向や研究事例などをまじえて解説する。 |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業において紹介する情報処理技術の基本概念、および関連技術分野の研究開発動向を理解する。 ・応用システムの研究開発過程、またその関連分野の研究開発動向と課題について理解する。 |
| 授業計画 | <p>第1・2回は、コンピュータビジョン技術の概要と次世代カメラシステムに関する研究、また、その福祉機器への応用について紹介する。</p> <p>第3・4回は、音声及び音響処理技術に関連した研究について障害者支援や高齢者支援への応用を中心に紹介する。</p> <p>第5・6回は、生体信号に係る情報処理技術について福祉応用を中心に紹介する。</p> <p>第7・8回は、実世界におけるビジョン応用の基盤技術として、ビジョンの幾何とそれを利用して画像から3次元情報を獲得する手法を紹介する。</p> <p>第9・10回は、画像処理技術を中心に、高齢化社会、福祉国家で期待される医用やロボティクス応用について紹介する。</p> <p>(各回の順番は入れ替わる可能性があります。)</p> |
| 評価の方法 | レポートと授業への取り組み度合に基づいて評価する。 |
| 教科書 | 必要な講義資料は授業時に配布する。 |
| 参考書 | 講義の中で、適宜、参考文献を紹介する。 |
| オフィスアワー | |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | メディア技術特論 |
| 科目番号 | 01MB216 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 C 集中 |
| 担当教員 | 加茂 竜一, 小川 恵司, 宗村 泉 |
| 授業概要 | 凸版印刷が永年培ってきた印刷技術は、ICT により様々な変化を続けるメディアの中において現在も特徴ある進化を続けている。本講では、歴史的基盤としての「印刷文化」を再確認し、近年のデジタル化により実現しつつある印刷表現領域の拡大について、文化という切り口から「情報化と公開技術」をテーマとして講義と事例により考察する。 |
| 備考 | トッパン小石川ビル(文京区)にて実施 講義科目 7/3、7/7、7/8、7/10 |
| 達成目標 | 印刷文化論についての概論理解。 デジタル画像表現技術についての理解と先端表現手法の体験。 印刷(電子出版も含む)における文字表現についての理解。 |
| 授業計画 | 1) はじめに 2) 印刷概論(講義、印刷博物館視察含等) 3) 印刷文化概論-1:印刷の歴史 4) 印刷文化概論-2:欧州と東アジアの印刷 5) 印刷博物館の設立と運営について 6) デジタル画像技術の応用としての文化財デジタルアーカイブ 7) 基盤技術としての三次元計測技術と色調管理技術 8) バーチャルリアリティ等先端表現技術について 9) 文字における表現技術について 10) 電子書籍の動向について |
| 評価の方法 | 講義参加とレポート |
| 教科書 | |
| 参考書 | 参考資料は随時配布 パワーポイントについては、講義室内での閲覧のみ。 |
| オフィスアワー | |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | 情報学特論 |
| 科目番号 | 01MB218 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 金 3,4 |
| 担当教員 | 岩澤 まり子 |
| 授業概要 | 特定の領域の情報を取り上げ、情報が有する特性、蓄積の方法、分析・利用の可能性、および質の評価について、様々な情報サービス事例を分析することにより学び、情報支援サービスの在り方を考える。 |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | ヘルスインフォマティクスに関する現状および考え方を理解し、これからのヘルスサービスの在り方を考えることができるようになる。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業概要 2) 健康科学情報の特性 3) エビデンスとなる健康科学情報の生産 4) 健康科学情報の蓄積 5) 情報の質の評価 6) 根拠に基づく医療 7) 医療者と医療消費者との情報の共有 8) 情報サービス事例 1:症例報告 9) 情報サービス事例 2:診療ガイドライン 10) これからの健康科学情報サービス |
| 評価の方法 | 医学論文(海外)の批判的購読と医学文献探索(国内および海外)に関するレポート、および最終レポートに、授業への参加度を加味して評価する。 |
| 教科書 | 適宜指示する。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | アルゴリズム特論 |
| 科目番号 | 01MB219 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 火 3,4 |
| 担当教員 | 森継 修一 |
| 授業概要 | 情報系数学における基本的アルゴリズムとその効率化や応用を解説する。題材は (1) 整数・多項式などを対象とする代数的アルゴリズム (2) 計算幾何学・和算研究への応用 (3) ウェブページの検索とランキングのアルゴリズム などを取り上げる。必要に応じて、数式処理システムなどの数学的ソフトウェアを用いた問題解決の技法も解説する。 |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 採り上げた各種アルゴリズムの数理的基礎を理解する。 ・ 必要に応じて、数学的ソフトウェアなどを利用して、実際の応用問題を解けるようになる。 |
| 授業計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 科目の概説、および、整数・多項式に関する代数的アルゴリズムの基礎 ・ 多項式計算のモデル化とアルゴリズムの効率化-連立代数方程式の exact な解法など ・ 計算幾何学への応用-定理証明・数理折紙・和算研究への応用など ・ ウェブページの検索とランキングのアルゴリズム |
| 評価の方法 | 出席状況および複数回のレポートの総合点による。 |
| 教科書 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 「応用のための代数系入門」増田真郎, サイエンス社 2. 「アルゴリズム・サイエンス:出口からの超入門」岩間一雄, 共立出版 3. 「代数学入門第三課」一松信, 近代科学社 その他、適宜資料を配布する。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 火 18:00-19:00 7D214 moritsug at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | データサイエンス概論 |
| 科目番号 | 01MB220 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 月 5,6 |
| 担当教員 | 長谷川 秀彦, 時井 真紀 |
| 授業概要 | データサイエンスに係る近年の主要な研究成果を取り上げ、基本となる考え方から大規模データへの適用までを体系的に紹介し、具体的な課題に取り組みながら理解を深める。 |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | データサイエンスの基本となる考え方から大規模データへの適用までを体系的に紹介し、具体的な課題に取り組みながら理解を深める。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 導入とデータの扱い、データマイニングとは 2) 統計解析ソフト R の基礎 3) 回帰分析と主成分分析 4) クラスタ分析 5) PageRank 6) LSI 7) カーネル法 8) SVM 9) SVM 10) まとめ、データを解析した結果をプレゼン |
| 評価の方法 | プロジェクト:実データに対して自分で分析・検討を行う。 |
| 教科書 | |
| 参考書 | <p>パターン認識のためのサポートベクトルマシン入門, 阿部重雄, 森北出版株式会社</p> <p>データマイニング入門, 豊田秀樹, 東京図書</p> <p>工学のためのデータサイエンス入門, 間瀬 茂, 神保 雅一, 鎌倉 稔成, 金藤 浩司, 数理工学社</p> |
| オフィスアワー | |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 情報メディア演習 A (情報学) |
| 科目番号 | 01MB251 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1 年次 |
| 時間割 | 春 AB 木 5,6 |
| 担当教員 | 佐藤哲司, 森継修一 他 |
| 授業概要 | 「研究」には, 新規性, 有用性, 信頼性など, 様々な要素が必要とされる. 本科目では, 新規性の源となる「気づき」や「着眼」の習得, ならびに, 信頼性の高い論文を書くために必要となる「根拠に基づく論旨展開」の習得を目的とする. 具体的な題材を用いながら実践的な取り組みを行う. |
| 備考 | 演習科目 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・多くの研究事例に触れて興味を広げることと, 通底する概念を理解する. ・具体的な対象を用いた実践により, 強み・弱み・機会・脅威など多面的な分析と戦略立案手法を体得する. ・観測データなど実データを対象に, 効果的かつ理解が容易となるグラフや表を作るための方法論を習得する. データの見方や着眼点で結果が異なることを知る. |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス 2) 研究領域の紹介 (1) 3) 研究領域の紹介 (2) 4) 調査対象の分析 5) 調査結果の評価 6) データの分析 7) 報告書の設計 8) 報告書の執筆 (1) 9) 報告書の執筆 (2) 10) まとめと演習 B にむけた準備 |
| 評価の方法 | レポートの成績を重視し演習への参加状況等を考慮して判定する |
| 教科書 | なし |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 水 1 限 7D205 http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~satoh/index-j.html |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ分け等を行う都合などがあるので, 第 1 回は必ず出席のこと. やむを得ず欠席をする場合は,**事前に**メールで連絡のこと. ・レポート課題を期日までに提出すること. 期限に遅れたレポートは受け付けません. |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | テキスト解析 |
| 科目番号 | 01MB301 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 金 1,2 |
| 担当教員 | 中山 伸一, 真榮城 哲也 |
| 授業概要 | テキストデータから, 様々な知識を抽出する方法論について解説する. 一部演習的にも行う. |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | テキストデータからどのような知識が抽出できるのかが分かること。 どのような知識を抽出するにはどのような方法が使えるのかが分かること。 知識を抽出する方法の原理を説明することができること。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 真贋鑑定 (1) ワードスペクトルによる特徴分析 2) 真贋鑑定 (2) 特徴的な単語の出現頻度を用いた分析 3) 多変量解析を用いた著者分類の方法 4) 感性情報・知識情報を抽出する方法 5) 物語分析の方法 6) テキストデータからのデータ抽出 7) テキストデータに含まれる要素の共出現状況の分析 8) ネットワーク構造の考え方 9) ネットワーク科学によるテキスト解析 10) インターネット上のテキストデータの分析 |
| 評価の方法 | 出席状況とレポートを総合的に判定する。 |
| 教科書 | 適宜指示する。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | <p>事前にメールにて在室を確認することが望ましい。</p> <p>中山 伸一 月 3・4 限 (春 C は月 1・2 限) 7D410 nakayama at slis.tsukuba.ac.jp</p> <p>真榮城 哲也 水 1・2 限 7D409 maeshiro at slis.tsukuba.ac.jp</p> |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | デジタルドキュメント |
| 科目番号 | 01MB302 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 火 3,4 |
| 担当教員 | 松村 敦, 高久 雅生 |
| 授業概要 | デジタルドキュメントの例として電子書籍, オンラインジャーナルなどを採り上げ, 具体的にその特徴, 機能, 問題点を講じる. また, これらのデジタルドキュメントを作成して配布する工程として電子出版を採り上げ, 従来の紙媒体出版物のみを出版する出版と比較することにより, 両者の共通点, 相違点を示すとともに相違点が生じた理由も含めて講じる. また, デジタルドキュメントの著作権保護, 図書館の役割にも触れる. |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | この授業を受け自ら調査発表を行うことによって, 次の事柄が分かるようになる. なぜ, 次々と多種多様なデジタルドキュメントが考案され, 使用され, 消えていったか; 出版と電子出版 (One source multiple use のための電子出版を含む) の共通点・相違点; 文書構造の ISO 規格の必要性; PDF の基本概念, レイアウト機能; Web, EPUB の構造と機能; デジタルドキュメントの著作権保護のための仕組みの必要性とその方法の概要; デジタルドキュメントの教育・研究への適用と図書館の役割. |
| 授業計画 | <p>1) イントロダクション document の原義, digital document とは, publishing の本来の意味など.</p> <p>2) 様々な digital document 対 (non-digital:紙の) document デジタルドキュメントの典型例:電子書籍, オンラインジャーナル, 電子辞書などについて, その多様性, 特徴, 機能, ハードウェア, ソフトウェア, 寿命などを, その原因とともに説明し, 旧来の紙媒体の document と比較する.</p> <p>3) なぜ AAP(米国出版者協会) が策定した文書構造の規格が ISO 規格になったか One source multiple use のための電子出版とその実現のための交換フォーマット.</p> <p>4) デジタルドキュメントのフォーマットの典型例 1:PDF PDF(Portable Document Format) の基本概念;PDF によるレイアウト;PDF の進展.</p> <p>5) 出版 (publishing) 対 電子出版 (electronic publishing) 共通点, 相違点 出版とは工程; 出版 (企画, 執筆, 編集, 校正, 印刷, 製本, 配布 (販売を含む)); 電子出版 (企画, 執筆, 編集, 校正,(デジタルドキュメントの) 作成, 配布);One source multiple use のための電子出版.</p> <p>6) 出版 (publishing) 対 電子出版 (electronic publishing) 共通点, 相違点</p> <p>7) デジタルドキュメントのフォーマットの典型例 2:Web, XHTML, EPUB Web の基本概念;XHTML の機能;EPUB(電子書籍の標準フォーマット) の構造と機能.</p> <p>8) デジタルドキュメントの著作権保護のための仕組みとビジネスモデル なぜ著作権保護のための仕組みが必要か; その方法各種.</p> <p>9) デジタルドキュメントの適用:教育, 研究への適用, 図書館の役割</p> <p>10) 学生による調査発表と質疑応答</p> |
| 評価の方法 | 学生による発表とレポートにより評価する. |
| 教科書 | 無し. 必要に応じて資料を配布する. |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 松村敦 木 6 限 7D212 matsumura.atsushi.ga あっと u.tsukuba.ac.jp(あっとを変換してください) 高久雅生 7D208 |

| | |
|-----|--|
| その他 | |
|-----|--|

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | デジタルライブラリ |
| 科目番号 | 01MB303 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 金 5,6 |
| 担当教員 | 宇陀 則彦, 辻 慶太 |
| 授業概要 | デジタルライブラリが Google を代表とする検索系サービスと異なる点は、それぞれ一定の基準で収集したコレクション群を対象としている点である。Google が世界中の情報を均一的に扱うことを目指しているとするれば、デジタルライブラリはコレクションの多様性を維持したうえで、つなぐべきものをつなぐことを目指している。もうひとつ重要な点は、利用者の多様性に対応するかどうかである。Google は最大多数の要望に対応する方向を目指しているが、デジタルライブラリはたとえ要望の数が少なくても、個々の利用者要求に応じて情報を発見することを目指している。必然的にデジタルライブラリは、ディスカバリ型（発見支援型）のサービスに向かう。本講義はデジタルライブラリの歴史、要素技術、システム設計、サービス戦略等について総合的に論じる。授業は講義中心に行い、適宜論点を立て、議論を行う。 |
| 備考 | 講義科目 01MB503 との重複履修不可 |
| 達成目標 | 大学図書館におけるデジタルライブラリの位置づけが理解できる。 公共図書館におけるデジタルライブラリの位置づけが理解できる。 Web 環境におけるデジタルライブラリの位置づけが理解できる。 デジタルライブラリの要素技術について理解できる。 デジタルライブラリのサービス戦略について理解できる。 |
| 授業計画 | 1) デジタルライブラリの歴史 2) 世界のデジタルライブラリ 3) 大学図書館と学術情報システム 4) 電子ジャーナルと機関リポジトリ 5) デジタルライブラリの設計と実装 6) 次世代 OPAC からディスカバリーサービスへ 7) 公共図書館とデジタルライブラリ 8) 図書館サービスにおける電子書籍 9) デジタルレファレンス 10) デジタルライブラリの将来 知識情報サービスへの挑戦 |
| 評価の方法 | レポート |
| 教科書 | 授業で配布する |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 宇陀 則彦 春(火5) 秋(木5) 7D210 uda at slis.tsukuba.ac.jp http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~uda/ 辻 慶太 水 12:00-13:00 7D512 keita at slis.tsukuba.ac.jp http://slis.sakura.ne.jp/ |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | デジタルアーカイビング |
| 科目番号 | 01MB304 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 金 3,4 |
| 担当教員 | 阪口 哲男, 白井 哲哉, 水嶋 英治 |
| 授業概要 | 20 世紀末のデジタル革命以降, 「デジタルアーカイブズ」という言葉は日本社会の中でごく普通に耳にするようになった. しかし「アーカイブズ」とは何か, 「デジタルアーカイブズ」とは本来どのようなものか, その理解は必ずしも敷衍化されていない. 講義ではアーカイブズ学の基礎理論を踏まえ, 従来のアーカイブとデジタルアーカイブの比較検討, アーカイブの前提となるデジタルプリゼーションの諸問題, 現在のデジタルアーカイブズにおける技術的問題点, デジタルライブラリとの関わり等について論じる. |
| 備考 | 西暦奇数年度は英語で授業 講義科目 |
| 達成目標 | この講義では, アーカイブズ学の基本理論と最前線の技術論を踏まえてデジタルアーカイブを理解することができる. また, デジタルライブラリとデジタルアーカイブの関連性等の諸問題にも理解を及ぼすことができる. |
| 授業計画 | 1) はじめに 2) 基礎理論: Archive と Archiving 3) 紙媒体におけるアーカイブの歴史 (1) 4) 紙媒体におけるアーカイブの歴史 (2) 5) 紙媒体におけるデジタルアーカイブ 6) デジタルアーカイブとデジタルプリゼーション 7) データ記録媒体と長期保存 8) デジタルデータと長期保存 9) データ形式とその再生・閲覧環境 10) 長期保存におけるデジタル署名等の有効期限について なお, 受講者の背景知識等に応じて項目の順序・回数を適宜調整する. |
| 評価の方法 | レポートにより評価する. |
| 教科書 | 講義で指示する. |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 阪口 哲男 火曜 4 時限目 7D312 saka at slis.tsukuba.ac.jp http://www.sakalab.org/ 水嶋 英治 月 5,6 限 7D303 mizushima at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | 授業 Web ページ: 阪口担当分: http://www.sakalab.org/lectures/ |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | ドキュメント管理 |
| 科目番号 | 01MB305 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 火 3,4 |
| 担当教員 | 白井 哲哉, 石井 夏生利 |
| 授業概要 | この講義では、2011 年 4 月施行の公文書管理法を踏まえた、国・国立大学法人・地方公共団体における公文書の取扱い、管理及び保存利用に関する理論的検討と、現場における諸問題の分析を行う。公文書をめぐる従来の議論や経緯を踏まえつつ、新たな時代の公文書管理を展望する。 |
| 備考 | 西暦偶数年度開講。 講義科目 01MB532 との重複履修不可 |
| 達成目標 | この講義では、公文書の取扱い、管理及び保存利用について必要な知識を包括的に学ぶことができる。 講義を通じて得る知識は、現用公文書から歴史的公文書等に及ぶ今日的課題の解決に資するものである。受講者がそれを公文書館、図書館に止まらず、広く行政等の現場で生かしていくことを望む。 |
| 授業計画 | 1) 基礎理論:アーカイピングとレコードマネジメント 2) 日本近現代における公文書管理の歴史 3) 公文書館法と公文書管理法 4) 国における公文書の管理・保存・活用 5) 地方公共団体における公文書の管理・保存・活用 6) 国立大学法人における公文書の管理・保存・活用 7) 公文書の取扱いをめぐる法的諸問題 8) まとめと展望 |
| 評価の方法 | 出席、レポート、期末試験の成績等を勘案して評価する。 |
| 教科書 | 講義で指示する。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 白井 哲哉 水 2 限 7D407 tetsushi at slis.tsukuba.ac.jp 石井 夏生利 春学期木 3 限; 秋学期火 3 限 7D509 kaoriish at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | ・日本の記録資料 (アーカイブズ) の全体像については、「デジタルアーカイピング」で取り上げる。 ・歴史的資料や民間団体の文書については、キャリアアッププログラムの奇数年開講「アーカイブ論」で取り上げる。 |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | 情報メディア組織化 |
| 科目番号 | 01MB306 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 木 1,2 |
| 担当教員 | 水嶋 英治 |
| 授業概要 | 本講義では、情報と情報資源の組織化を広範にとりあげる。特にメタデータによる組織化を重点的にとりあげる。とりあげるトピックは以下のとおりである。1) メタデータの設計・管理:情報資源の概念モデリングとその他のメタデータ設計プロセス, メタデータ作成・提供の実態, 主要標準(代表的な概念モデルやメタデータスキーマなど)。2) 主題分析, 語彙統制, 分類:主題分析の理論と多様な意味関連, オントロジー工学との関連など教員による説明後, 関連するトピックについての受講生による発表と質疑をもって進める。 |
| 備考 | 西暦奇数年度は英語で授業 講義科目 |
| 達成目標 | |
| 授業計画 | |
| 評価の方法 | |
| 教科書 | 1. The Discipline of Organizing, edited by Robert J.Glushko, MIT Press, 2013 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 月 5,6 眼 7D303 mizushima at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | メタデータ |
| 科目番号 | 01MB307 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 月 5,6 |
| 担当教員 | 杉本 重雄 |
| 授業概要 | 本講義では、メタデータの基本概念、モデルならびにその応用について、以下のようなトピックについて述べる。・ネットワーク情報環境並びにデジタルライブラリにおけるメタデータの基本的考え方と基礎概念 ・ネットワーク情報環境で用いられる主要なメタデータ標準.Dublin Core,MODS,METS など ・Web 上でのメタデータ記述のモデルと応用. たとえば Resource Description Framework ・メタデータの相互運用性の課題、Dublin Core Application Profile など |
| 備考 | 西暦偶数年度は英語で授業 講義科目 |
| 達成目標 | ネットワーク指向のメタデータに関して理解し、デジタルアーカイブ等のネットワーク上のサービスとそれを支えるメタデータの技術について理解を深める。 |
| 授業計画 | 講義の前半では、ネットワーク指向のメタデータ、デジタルライブラリ等に関わる全般的な内容を講義する。後半では、受講者の傾向等を考慮しながら、より特化した話題に関する講義と研究紹介などを行う。 第 1 週 全般的な解説 第 2・3 週 デジタルライブラリやアーカイブ等に関する全般的な解説 第 4~7 週 メタデータに関する解説 Dublin Core, FRBR, OAIIS などの国際標準 Semantic Web 技術 第 8 週~第 10 週 研究事例の紹介 なお、機会があれば国内・海外のメタデータ等の研究者による特別講義を行う。 1) インターネット上での情報流通、デジタルアーカイブ、デジタルライブラリ等に関する概観 2) インターネット上での情報流通を支える基盤としてのメタデータとその基本概念、ならびに主要な標準に関して 3) インターネット上で広く使われるメタデータ標準である Dublin Core に関して、その特徴、開発過程、相互運用性に関する基本的な考え方について 4) WWW 上のメタデータ記述のための標準である Resource Description Framework に関して 5) メタデータスキーマに関して。WWW 上でのスキーマの相互利用、再利用等に関して 6) 受講者による発表この講義で学んだことをベースにして、各自が関心を持った項目に関して、より深く調べ、発表する |
| 評価の方法 | レポートならびに発表 講義では小さなグループによる共同作業を行うこともある。講義への積極的な参加を求める |
| 教科書 | 教科書は用いない |
| 参考書 | 参考資料は、メタデータや Semantic Web に関する図書、標準規格資料、論文等。 講義資料は配布する。 その他の関連資料は講義時に指示する |
| オフィスアワー | 随時 (講義時あるいはメールによる予約を強く推奨) sugimoto at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | XML や Web に関する技術的基礎知識を持つことが望ましい。 英語の文件を読むことを厭わないこと |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 公共経営論 |
| 科目番号 | 01MB308 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 金 3,4 |
| 担当教員 | 鷲頭 美央 |
| 授業概要 | 公共経営の在り方、特に近年における地方自治を取り巻く情勢の変化を踏まえた、自治体経営の在り方について論じる。基本的な地方行財政制度を踏まえた上で、近年における新しい公共経営 (NPM) の考え方や、指定管理者、PFI、市場化テスト、政策評価等の取組を取り上げる。 |
| 備考 | 講義科目 01MB541 との重複履修不可 |
| 達成目標 | 地方行財政制度の概要について理解する。 併せて、自治体の抱えている課題等について理解し、新しい公共経営 (NPM) の取組が行われるようになった背景や、具体的な取組内容について理解する。 更に、これら理論や取組が、具体的な政策課題にどのように適用されているかを実践的に理解する。 |
| 授業計画 | 概ね次のようなものを予定している。 全 10 回で、前半が地方行財政制度、後半が新しい公共経営関係。 第 10 回にグループワークによるケーススタディを実施する予定。 1) 地方財政制度を中心とした行政の仕組み 地方行財政制度の基本的な仕組み 地方分権改革や道州制、大都市制度等の最近の動き 2) 新しい公共経営の理論と具体的取組 指定管理者制度、PPP/PFI、市場化テスト等の民間との連携 政策評価や公会計等を活用した行政改革 この他、具体的な政策課題に関するケーススタディを 2 回程度行う予定。 |
| 評価の方法 | 授業への出席状況等を勘案し、レポート及びグループワークにより評価。 |
| 教科書 | 教科書は特に指定しない。必要に応じ、授業の際に文献を紹介する。 |
| 参考書 | 以下の書籍はやや古いですが、現代的な課題について平易に説明しているので参考にされたい。 1. 岡本全勝『地方自治入門』時事通信社 2. デビッド・オズボーンほか『行政革命』日本能率協会マネジメントセンター |
| オフィスアワー | |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 公共図書館 |
| 科目番号 | 01MB309 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 木 3,4 |
| 担当教員 | 池内 淳, 毛利 るみこ |
| 授業概要 | 市民に最も身近な図書館である公共図書館に関する基本的事項について, 概念, 現状, 社会的役割, 構成要素, 効用, 経営, 評価, 政策, 行政等の観点から考える. 公共図書館に関するさまざまな考え方と最近の公共図書館の変化を重視する. それぞれ, 講義を中心に, 文献購読, 討論も行う. |
| 備考 | 2015 年度開講せず。 講義科目 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 公共図書館の基本的事項がわかる。 ・ 社会において公共図書館が果たすべき役割、現実に果たしている役割がわかる ・ 公共図書館の在り方が社会の現状に対応したものであることがわかる。 ・ 現在の公共図書館の取り組みや変化の意義がわかる。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) イントロダクション 2) 公共図書館の概念と現状 3) 公共図書館の社会的役割 4) 公共図書館の構成要素 5) 公共図書館の効用 6) 公共図書館の経営 7) 公共図書館の評価 8) 公共図書館の行政 9) 社会教育施設の政策 10) 公共図書館の政策 11) 試験 |
| 評価の方法 | 授業中の発表、レポートによって総合的に評価します。 |
| 教科書 | 教科書はとくに指定しません。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 池内 淳 火 4 限 7D413 atsushi at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | 文化的多様性と図書館情報サービス |
| 科目番号 | 01MB310 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 月 3,4 |
| 担当教員 | 吉田 右子 |
| 授業概要 | 文化的多様性は 21 世紀の公共図書館サービスにおいて重要な課題となっている。そうした状況のなかで公共図書館は人種・民族・ジェンダー・性的志向・年齢などに関わる利用者の多様性に基づき適切なサービスを提供する必要がある。本講義では、情報と文化へのアクセスに関して不利な条件に置かれてきたマイノリティ利用者への図書館サービスに焦点を当てる。まず日本、北アメリカ、北ヨーロッパの各地域の公共図書館におけるマイノリティを対象としたサービス事例をみていく。次に多様な図書館利用者を対象とする図書館情報サービスの持つ課題を検討する。さらに公共図書館サービスを社会的・文化的・政治的状况と関連づけながら、マイノリティを対象とするサービスにかかわる理念的フレームワークについて議論する。 |
| 備考 | 西暦奇数年度は英語で授業 講義科目 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・多様な文化的背景を持つ利用者グループのニーズを明確にする ・多様な文化的背景を持つ利用者への図書館情報サービスの多様性について理解する ・多様な文化的背景を持つ利用者への図書館情報サービスの課題と限界について理解する |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) はじめに 2) 文化的多様性と図書館サービス:概観 3) 文化的多様性と図書館サービス:日本 4) 文化的多様性と図書館サービス:北アメリカ (1) 5) 文化的多様性と図書館サービス:北アメリカ (2) 6) 文化的多様性と図書館サービス:北ヨーロッパ (1) 7) 文化的多様性と図書館サービス:北ヨーロッパ (2) 8) 利用者の文化的多様性を考慮したサービス:性的マイノリティ 9) コミュニティの文化的多様性を考慮したサービス:先住民 10) まとめ |
| 評価の方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・出席 (20%), ・第 1 回発表 (30%) ・第 2 回発表 (30%) ・ディスカッションへの参加度 (20%) <p>の 4 点から評価する</p> |
| 教科書 | 特になし |
| 参考書 | 参考資料については、授業中に適宜紹介する。 |
| オフィスアワー | 春:月 2 限、秋:月 4 限 7D116 yyoshida at slis.tsukuba.ac.jp http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~yyoshida/ |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 図書館経営論 |
| 科目番号 | 01MB311 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 月 3,4 |
| 担当教員 | 大庭 一郎 |
| 授業概要 | 本講義では、経営学に関する理論、原則、技法を紹介し、それらの図書館情報サービスへの応用を紹介する。この講義で学ぶテーマには、図書館の役割、種類、制度、経営管理、組織体制、サービス計画、人的資源管理などが含まれる。特に人的資源管理については、現状、社会的ニーズ、訓練と開発についても言及する。 |
| 備考 | 西暦偶数年度は英語で授業 講義科目 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・経営学に関する理論、原則、技法、および、それらの図書館情報サービスへの応用を理解することができる。 ・人的資源の活動の場である情報サービス機関の組織体制について、経営学の視点から考察することができる視野を養うことができる。 ・修士論文の作成に必要な基礎知識(文献の読み方、まとめ方、書誌事項の記述方法、等)を身につけることができる。 |
| 授業計画 | <p>図書館経営に関する文献(15~20点)を取り上げ、それらの課題文献に関する講義、発表、討論を行う。受講生は、毎週、課題文献を読み、文献レポートを作成した上で授業に出席すること。文献レポートのまとめ方については、第1回目の講義の際に解説する。授業予定は、以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 2) マネージメント入門 3) 図書館情報サービスの計画 4) 組織デザイン 5) ステークホルダー・マネジメント 6) 人的資源管理 7) コミュニケーションとチームワーク 8) リーダーシップと組織の変革 9) 財務管理 10) マーケティングとプロモーション 11) 課題レポート/期末試験 |
| 評価の方法 | 出席状況と授業参画度(発表・討論)(約30%)、文献レポート(約35%)、学期末課題レポートもしくは学期末試験(持込不可)(約35%)によって総合的に判定する。ただし、いずれかの評価項目の成績が著しく低い場合には、減点評価の対象とする。 |
| 教科書 | 第1回目の講義の際に、教科書(3冊程度)と課題文献の指示をする(教科書は必ず購入して下さい)。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 月2限 7D113 iohba at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・履修希望者は、TWINSで早めに履修申告をして下さい。 ・第1回目の講義で使用する資料については、4月の第1週までに掲示でお知らせしますので、持参して下さい。 ・第1回目の講義では、この科目の履修上の説明をします。第1回から出席することを前提に講義は組み立てられていますので、出席していないと不利になります。 ・毎回新しいテーマを扱い、欠席するとその後の講義を理解する上で障害になりますので、全て出席する覚悟で受講して下さい。 |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | メディア教育 |
| 科目番号 | 01MB312 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 火 1,2 |
| 担当教員 | 鈴木 佳苗 |
| 授業概要 | 現在のような情報社会においては、メディアリテラシーの育成が重要な課題になっている。本講義では、メディアリテラシーの概念と国内外のメディア教育の現状について概説し、メディア教育の課題について議論する。また、メディアの影響や、メディアのメッセージやメディア教育プログラムの分析を通してメディアやメディア教育についての理解を深める。 |
| 備考 | 西暦偶数年度は英語で授業 講義科目 01MB522 との重複履修不可 |
| 達成目標 | 本講義では、以下の点を学び、理解することを目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを取り巻くメディア環境 ・メディアリテラシーの概念 ・メディアの影響と理論 ・メディア教育の歴史と現状 ・メディア教育の実践とプログラムの分析 ・メディア教育の課題と解決法 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) イントロダクション 2) メディアリテラシーの概念と現在のメディア環境 3) メディアの影響と理論-1 4) メディアの影響と理論-2 5) メディアの影響と理論-3 6) 国内外におけるメディア教育-1 7) 国内外におけるメディア教育-2 8) メディア教育の実践とプログラムの分析-1 9) メディア教育の実践とプログラムの分析-2 10) 総括 |
| 評価の方法 | 出席、レポート、発表、最終課題により総合的に評価する。 |
| 教科書 | 講義資料を配布する。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 学校図書館経営 |
| 科目番号 | 01MB313 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 月 1,2 |
| 担当教員 | 平久江 祐司 |
| 授業概要 | 学校図書館メディアセンターにおける経営, 教育指導, 人材育成などの諸問題を日米のコア文献に基づき考察する. 指定するコア文献は, 年度によって若干の変更はあるが, 日本語文献が中心となる。授業は講義だけでなく, 指定した文献の中から学生が自由に選択し発表を行う。 |
| 備考 | 講義科目 01MB521 との重複履修不可 |
| 達成目標 | 授業計画に挙げた諸問題についての知識や重要な概念を修得するとともに, それらについて分析・評価し, 自己の見解や主張を発表することができる。 |
| 授業計画 | 日米の学校図書館 (学習情報センター) 運営に関するコア文献を読み, それについて学生が発表していくゼミナール方式で主に授業を行なう。また, 必要に応じて学校図書館経営の動向や基本的な知識を理解するために講義形式で授業を行なう。各学生が担当する文献はコア文献の中から自由に選択する。これらを通して, 日米の学校図書館の在り方を展望する。講義内容は, 受講する学生数によって変わるが, 概ね以下ようになる。 1) 講義概要の説明及びコア文献の紹介 2) 日本の学校図書館 (学習情報センター) の動向 (講義形式) 3) 日本の学校図書館 (学習情報センター) の運営と今日的課題 (発表形式) 4) 日本の学校図書館 (学習情報センター) の運営と今日的課題 (発表形式) 5) 日本の学校図書館 (学習情報センター) の運営と今日的課題 (発表形式) 6) 米国の学校図書館 (メディアセンター) の動向 (講義形式) 7) 米国の学校図書館 (メディアセンター) の運営と今日的課題 (発表形式) 8) 米国の学校図書館 (メディアセンター) の運営と今日的課題 (発表形式) 9) 日米の学校図書館・学習情報センター運営の比較考察 (講義・発表形式) 10) まとめ (講義形式) |
| 評価の方法 | 発表のために作成した資料とプレゼンテーションを基に評価する。また, 出席状況についても多少考慮する。 |
| 教科書 | 教科書・参考書・上記コア文献については開講時等で随時紹介する。また, 必要に応じて教材として講義資料をプリントし配布する。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 月 3・4 限 7D404 hirakue at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | 講義の中で, 可能な場合は近隣の学校図書館への訪問調査を行うこともある。 |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 教育政策と情報専門職 |
| 科目番号 | 01MB314 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 金 3,4 |
| 担当教員 | 溝上 智恵子 |
| 授業概要 | 大学図書館職員をはじめとする情報専門職が育成・雇用されて運営に携わる場である高等教育機関について理論的に論じる。さらに北米と日本を対象に、高等教育機関の抱える課題とその解決策についての事例研究を行う。なお、高等教育を深く理解するために、初・中等教育も含めた教育の意味、教育制度、制度を構築してきた政策について、その歴史の変遷と課題を学ぶ。 |
| 備考 | 西暦偶数年度は英語で授業 講義科目 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・高等教育の歴史をふまえ、大学教育の基本的な意義について、説明できる ・日本の高等教育における現在の課題を説明できる。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション:日本における高等教育の現状を考える 2) 教育の意味を考える:初等・中等教育も含め、「教育」という営みがどのように考えられ、変遷してきたのかを考える 3) 高等教育の歴史:アメリカを事例に高等教育の歴史を概観し、社会と高等教育との関連を考える 4) 学位とカリキュラム:学位の基準とカリキュラムの体系化について考える 5) 高等教育と学力の保証:アメリカとヨーロッパにおける学力保証への取組を検討する 6) アクレディテーション:アメリカの事例をもとに、アクレディテーション制度を検証する。具体的なケースにアメリカ図書館情報学分野をとりあげる。 7) 大学経営:少子化時代における大学経営を検討する 8) 大学開放と継続教育:大学開放運動の歴史をふりかえるとともに、継続教育の課題を考える 9) 専門職育成の場としての高等教育 10) プレゼンテーション |
| 評価の方法 | 評価は、講義レポート (80%) と最終発表 (20%) をもとに行う |
| 教科書 | 教科書はなし。ただし、第 1 回目に、各回の指定論文を配布するので、受講生は必ず事前に読んで、自分の意見をまとめること。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 火 3 限 7D504 mizoue@slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 学術情報基盤論 |
| 科目番号 | 01MB315 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 月 3,4 |
| 担当教員 | 逸村 裕 |
| 授業概要 | 大学における教育研究活動と学術情報流通の仕組みを踏まえ、大学図書館の役割、機能、電子ジャーナルと各種電子情報源サービス、情報リテラシ教育、機関リポジトリ、コンソーシアムその他の諸活動、ネットワーク、経営管理について、学術情報基盤、という概念のもとに総合的に学ぶ。 |
| 備考 | 西暦奇数年度は英語で授業 講義科目 01MB501 との重複履修不可 |
| 達成目標 | 大学構成員皆がなんらかの形で関わっている大学図書館と学術情報基盤についての理解を深める。多くのステークホルダーが関わる問題解決の事例を理解する。今後のあるべき姿について考究する |
| 授業計画 | 1) 学術情報流通の変革と学術情報基盤としての大学図書館 2) 大学を中心とする学術情報経営組織の動向とガバナンス 3) 学術情報基盤の歴史的展開 4) コンソーシアム活動 5) 利用者から見た学術情報 6) 評価の視点から見た学術情報組織 7) オープンアクセスと機関リポジトリ 8) 情報リテラシ教育 9) 史料管理 10) 今後の展開 |
| 評価の方法 | 出席状況と授業参画度 (10)、小テスト (10)、レポート (15*2)、試験 (50) の総合評価。レポートについては出題意図の理解と要件の記述がポイントとなる。 |
| 教科書 | 1. 逸村裕, 竹内比呂也共編. 変わりゆく大学図書館. 勁草書房. 2005. |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 水 1 限 7D313 hits at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | 履修の前提として、高等教育、学術情報流通の動きに敏感であることが必要である。 配布資料、授業関連資料、関連 WWW を多く紹介する。 予習復習をきちんとすることが必須である。 |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 学習環境の構築 |
| 科目番号 | 01MB316 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 火 1,2 |
| 担当教員 | |
| 授業概要 | 本講義では学習科学, 情報工学, 建築学の観点から, 人の学習 (学び) の支援方法について検討する. 前半では, 主として図書館と情報技術を用いた学習支援を扱い, 後半では建築学的視点から見た学習環境について扱う. 基本的に毎回講義形態で授業を行う. |
| 備考 | 2015 年度開講せず。 講義科目 |
| 達成目標 | 学習環境の構築に必要な知識・技術の習得を目指す。特にラーニングコモンズ,e-ラーニング,OCW,CMS,LMS; 学習に適した建築のあり方について深く理解することを目指す。 |
| 授業計画 | 以下のスケジュールで授業を行う: 1) イントロダクション 2) 学習環境としての図書館:ラーニングコモンズ 3) 電子的な学習環境 (1):概況 4) 電子的な学習環境 (2):e-ラーニング 5) 電子的な学習環境 (3):OCW,CMS,LMS 6) 建築物としての学習環境 (1) 7) 建築物としての学習環境 (2) 8) 建築物としての学習環境 (3) 9) 建築物としての学習環境 (4) 10) 建築物としての学習環境 (5) |
| 評価の方法 | レポートによる。 |
| 教科書 | なし |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | 資料と文化 |
| 科目番号 | 01MB317 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 木 5,6 |
| 担当教員 | 綿抜 豊昭, 松本 浩一 |
| 授業概要 | 図書館等が扱う「資料」にはどのようなものがあり, それはどのような歴史を持つのか, またそれはどのような文化を形成してきたのか, またそれを保存したり, 修復するにはどのような方法があるか, について講義する. |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | 図書館等が扱う資料について、多方面からの知識を習得する。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) どのような講義をするかについて述べる。 2) 資料について 3) 資料について 4) 紙媒体の本の歴史について 5) 紙媒体の本の歴史について 6) 紙媒体の本にまつわる文化について 7) 紙媒体の本にまつわる文化について 8) 近代より前の本の目録の作成等について 9) 近代より前の本の目録の作成等について 10) 保存・修復等について 11) 試験 |
| 評価の方法 | 試験・レポート・授業態度 |
| 教科書 | 最初の時間に提示 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | <p>綿抜 豊昭 水 7 限 7D503 wata at slis.tsukuba.ac.jp</p> <p>松本 浩一 火 2 限 7D301 matsuko at slis.tsukuba.ac.jp</p> |
| その他 | <p>松本、綿抜が隔年で担当。松本が主に漢籍、綿抜が主に和本について述べる。単位にはならないが、二年連続して受講することによって、より知識を深めることができる。</p> <p>23 年度は綿抜、24 年度は松本が担当する。</p> |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | 古文献・書誌論 |
| 科目番号 | 01MB318 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 水 5,6 |
| 担当教員 | 宮崎 和広 |
| 授業概要 | 近世の和学者の研究対象は古典である。彼らが古典を研究する上で、如何なる書物を如何様に理解して用いていたか？また彼らが手にした書物は如何なる形で通行していたのか？本講では、近世の和学者の研究を支えていた書物とそれに関わる諸問題について考える。その手がかりに、近世後期の国学者平田篤胤の「古史徴開題記」を一材料として、文化史・書誌学を含めた様々な観点から、検討を加えたい。 |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | 古典籍を、文化史的に判断し、書誌学的に記述する能力を習得する。 |
| 授業計画 | 以下のテーマを、分かりやすく講ずる予定である。併せて、毎時、教員が用意するさまざまな古典籍を用いて、書誌学の基礎を体験的に学習する。 1) 概説 2) 和学・漢学 3) 文庫と蔵書家 4) 書目 5) 叢書 6) 史書 7) 記録 8) 法制文献 9) 辞書と類書 10) 随筆 |
| 評価の方法 | 出席とレポート |
| 教科書 | 毎時、教員が、教材のプリントを用意する予定。 1. 山田孝雄校訂『古史徴開題記』(岩波文庫) |
| 参考書 | 参考書は随時紹介する。 |
| オフィスアワー | |
| その他 | 古典籍に興味関心のある院生の受講を歓迎する。開講までに、あらかじめ『古史徴開題記』の山田孝雄氏の巻頭の解説をお読み頂きたい。また足立巻一著『やちまた(上・下)』(河出書房新社*朝日学芸文庫にも所収)をあらかじめお読みになっておくと、授業がより理解しやすくなると思う。 |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 情報メディア演習 A(図書館情報学) |
| 科目番号 | 01MB351 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1 年次 |
| 時間割 | 春 AB 木 3,4 |
| 担当教員 | 歳森 敦 |
| 授業概要 | 修士(図書館情報学)の学位プログラムを選択した大学院生が、同学位プログラムにおける研究方法の基礎を演習形式で学ぶ。前半は本専攻で研究のために利用可能な諸資源を紹介するとともに、関連教員の最近の研究成果の紹介を通じて研究領域の概要を学ぶ。後半は質問紙調査の設計・実施・統計パッケージによる集計と報告書の作成について、実際に質問紙を作成し、実査を行うことを通じて身につける。 |
| 備考 | 演習科目 |
| 達成目標 | 研究のために利用可能な諸資源の概要を知る 修士(図書館情報学)の研究領域の広がりや多様な研究手法を知る 社会調査(量的調査)の方法論を身につけ、単独で調査の企画と実施、報告書作成ができるようになる |
| 授業計画 | 1) ガイダンス 2) 研究領域の紹介(1) 3) 研究領域の紹介(2) 4) 調査の企画 5) 調査票の設計 6) 整形と予備調査 7) 調査の実施とデータ入力 8) 集計とグラフ表現 9) 報告書の作成 10) 情報メディア演習 B にむけた準備 |
| 評価の方法 | レポート |
| 教科書 | |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 水 9:30-11:30 7D114 tosimori at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | Synthetic Seminar on MSc Research |
| 科目番号 | 01MB454 |
| 単位数 | 4.0 単位 |
| 標準履修年次 | 2 年次 |
| 時間割 | 春 C 秋 ABC 応談 |
| 担当教員 | 図書館情報学英語プログラム指導教員 |
| 授業概要 | In this course, students will synthetically develop professional practice, practical research methods and techniques, effective writing styles, and presentation skills based on the process of authoring a Master's thesis. |
| 備考 | 演習科目 |
| 達成目標 | |
| 授業計画 | |
| 評価の方法 | |
| 教科書 | |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 学術情報基盤論 |
| 科目番号 | 01MB501 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 BC 水 7,8 |
| 担当教員 | 逸村 裕, 呑海 沙織 |
| 授業概要 | 大学における教育研究活動と学術情報流通の仕組みを踏まえ、大学図書館の役割、機能、電子ジャーナルと各種電子情報源サービス、情報リテラシ教育、機関リポジトリ、コンソーシアムその他の諸活動、ネットワーク、経営管理について、学術情報基盤、という概念のもとに総合的に学ぶ。 |
| 備考 | 2015 年度開講せず。 講義科目 01MB315 との重複履修不可 |
| 達成目標 | 大学構成員皆がなんらかの形で関わっている大学図書館と学術情報基盤についての理解を深める。多くのステークホルダーが関わる問題解決の事例を理解する。今後のあるべき姿について考究する |
| 授業計画 | 1) 学術情報流通の変革と学術情報基盤としての大学図書館 2) 大学を中心とする学術情報経営組織の動向とガバナンス 3) 学術情報基盤の歴史的展開 4) コンソーシアム活動 5) 利用者から見た学術情報 6) 評価の視点から見た学術情報組織 7) オープンアクセスと機関リポジトリ 8) 情報リテラシ教育 9) 史料管理 10) 今後の展開 |
| 評価の方法 | 出席状況と授業参画度 (10)、小テスト (10)、レポート (15*2)、試験 (50) の総合評価。レポートについては出題意図の理解と要件の記述がポイントとなる。 |
| 教科書 | 1. 逸村裕, 竹内比呂也共編. 変わりゆく大学図書館. 勁草書房. 2005. |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 逸村 裕 水 1 限 7D313 hits at slis.tsukuba.ac.jp 呑海 沙織 木 6 限 7D403 donkai at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | 履修の前提として、高等教育、学術情報流通の動きに敏感であることが必要である。 配布資料、授業関連資料、関連 WWW を多く紹介する。 予習復習をきちんとすることが必須である。 |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | 学術コミュニケーション論 |
| 科目番号 | 01MB502 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 BC 木 7,8 |
| 担当教員 | 松林 麻実子 |
| 授業概要 | 本講義では、学術情報流通システムを構成している種々の要素-学術出版者や学術図書館、情報の生産・利用者としての研究者(学生も含む)、政府など-について整理し、相互の関係について学ぶことで、流通システムの全体像をつかむことを目的とする。取り上げるトピックは主に「学術メディアの電子化」「オープンアクセス」「学術コミュニケーションの電子化が研究者に与える影響」の3つであり、これらを学術コミュニケーションの全体像の中でとらえなおしてみたい。授業は原則として講義形式をとるが、受講生側から最新動向の報告や問題提起をしてもらう機会も設けたい(具体的な方法については受講生と相談の上、決定する)。 |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | 1) 学術コミュニケーションに関わる様々な要因を整理し、その構造を学ぶことで、学術コミュニケーションを俯瞰できるようになる。 2) 自分の勤務している機関が、学術コミュニケーションシステムの中のどの部分に位置づけられるか、考えることができる。 3) 学術コミュニケーションに関する最新の動向を追うことができる。 |
| 授業計画 | 1) イントロダクション 2) 古典的な学術コミュニケーションモデルについて 3) 学術メディアの電子化 [1] 概要 4) 学術メディアの電子化 [2] 問題点 5) 研究者の行動に見る電子化の影響 [1]Tenopir らの調査など 6) 研究者の行動に見る電子化の影響 [2]SCREAL 調査など 7) オープンアクセス [1] 理念・定義・沿革など 8) オープンアクセス [2] オープンアクセスをめぐる議論 9) オープンアクセス [3] セルフアーカイビングとオープンアクセス 10)e-Science と学術図書館/全体のまとめ |
| 評価の方法 | 1) 授業への出席状況,2) 授業におけるディスカッションへの参加状況,3) 最終授業におけるプレゼン・それを基にした最終報告書から総合的に評価する。 |
| 教科書 | 特に指定しない。ただし、初回授業時に本講義で読むべき文献の一覧(英文献を含む)を配布するので、授業までに必ず入手し、事前に目を通した上で受講すること。 |
| 参考書 | 授業時に適宜紹介する。 |
| オフィスアワー | 金 9:30-11:30 7D111 mamiko at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | デジタルライブラリ |
| 科目番号 | 01MB503 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 土 5,6 |
| 担当教員 | 宇陀 則彦 |
| 授業概要 | デジタルライブラリ的设计, 仕様, 実装, 運用に関して実践的な観点から講義する. 主に大学図書館サービスを取り上げ, 次世代 OPAC からディスカバリーサービスに至る最新動向を踏まえながら, デジタルライブラリ構築に関するノウハウを講義する. 授業は講義部分を半分程度におさえ, 履修者が抱えているデジタルライブラリに関わる問題をお互いに議論することを中心とする. |
| 備考 | 講義科目 01MB303 との重複履修不可 |
| 達成目標 | Web 環境におけるデジタルライブラリの位置づけが理解できる。 デジタルライブラリの要素技術について理解できる。 デジタルライブラリの仕様策定ができる。 |
| 授業計画 | 1) デジタルライブラリの歴史 2) 大学図書館と学術情報システム 3) デジタルライブラリと Google 4) 情報資源管理とオープンアクセス 5) 機関リポジトリの導入と運用 6) 次世代 OPAC からディスカバリーサービスへ 7) 業務システムと利用者システム 8) 利用者の情報行動 9) Web サービスと API 10) デジタルライブラリの将来 知識情報サービスへの挑戦 |
| 評価の方法 | レポート |
| 教科書 | 授業で配布する |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 春 (火 5) 秋 (木 5) 7D210 uda at slis.tsukuba.ac.jp http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~uda/ |
| その他 | デジタルライブラリ構築に関する実務経験がある者またはデジタルライブラリ担当になる可能性がある者 |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 情報分析 |
| 科目番号 | 01MB511 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 水 7,8 |
| 担当教員 | 関 洋平, 辻 慶太, 芳鐘 冬樹 |
| 授業概要 | テキストマイニング, データマイニング, ビブリオメトリクスの手法を用いた情報分析の方法について学習する. |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・テキストマイニング, データマイニング, ビブリオメトリクスの各種指標や分析手法に関する基本的な知識を身に付ける。 ・テキストマイニング, データマイニング, ビブリオメトリクスの手法を用いた研究の流れ (問題設定, データ抽出・整形, 分析, 結果の解釈) を理解し, 実際に行えるようにする。 |
| 授業計画 | 1) ガイダンス 2) 情報分析の基礎 (1) 情報を集めてみよう 3) 情報分析の基礎 (2) 正規表現を利用した情報抽出 4) 情報分析の基礎 (3) Weka を使ってみよう 5) テキストデータに基づく分析の手法 (1) 6) テキストデータに基づく分析の手法 (2) 7) テキストデータに基づく分析の手法 (3) 8) 書誌データに基づく分析の手法 (1) 9) 書誌データに基づく分析の手法 (2) 10) 書誌データに基づく分析の手法 (3) |
| 評価の方法 | 毎週出題するレポート・出席状況, および最終テストによる。 |
| 教科書 | 教科書は使用しない。 初回から 3 回は, ノート PC の持ち込みを推奨する。 |
| 参考書 | 参考書は, 必要に応じて随時紹介する。 |
| オフィスアワー | 関 洋平 水 10:10-11:25 7D213 yohei at slis.tsukuba.ac.jp 辻 慶太 水 12:00-13:00 7D512 keita at slis.tsukuba.ac.jp http://slis.sakura.ne.jp/ 芳鐘 冬樹 春学期 金 5 限; 秋学期 火 3 限 7D414 http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~fuyuki/index.html |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 情報活用 |
| 科目番号 | 01MB512 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 C 秋 A 水 7,8 |
| 担当教員 | 中山 伸一, 岩澤 まり子 |
| 授業概要 | 図書館統計, データベース特性, 特許情報, 物性データ, 感性データなどを分析することにより図書館情報サービスに活用するための考え方や方法を, 具体的な事例に則して学ぶ。 |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | 様々な情報やデータを分析することにより, 何がわかるのか, どのような用途に応用できるのかを理解する。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業概要 2) 特許文献の活用 1 3) 特許文献の活用 2 4) 学術文献の評価と活用 1 5) 学術文献の評価と活用 2 6) データの種類と扱い方 1 7) データの種類と扱い方 2 8) 知識発見の方法 1 9) 知識発見の方法 2 |
| 評価の方法 | 各回の課題提出 (授業中またはレポートとして) に, 授業への参加度を加味して評価する。 |
| 教科書 | 適宜指示する。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 岩澤 まり子 水 2 限 7D304 miwasawa at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | 情報表現法 |
| 科目番号 | 01MB513 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 C 秋 A 火 7,8 |
| 担当教員 | 時井 真紀, 鈴木 伸崇, 松村 敦 |
| 授業概要 | XML を基盤として情報の構造化や可視化に関する演習および必要な講義を行う。情報の構造化については,XML のスキーマ言語とスキーマ設計,XML データの検索・変換について取り上げる。情報の可視化は,数値化と構造化を行った情報を可視化し,利用する技術について取り上げる。 |
| 備考 | 演習科目 |
| 達成目標 | (1) 情報の構造化、特に XML のスキーマ言語とスキーマ設計の概略、XML データの検索・変換の概略について理解できるようになる。 (2) 数値データの特徴を把握し、データを効果的に表現する可視化手法を修得する。 (3) Web アプリケーションを作成するための基礎技術としての HTML5 を学ぶ。 |
| 授業計画 | 1) 情報の構造化 (1):XML とスキーマ言語 担当:鈴木 伸崇 2) 情報の構造化 (2):XML とスキーマ設計 担当:鈴木 伸崇 3) 情報の構造化 (3):XML によるメタデータ記述 担当:鈴木 伸崇 4) 情報の可視化 (1):数値データと XML 担当:時井 真紀 5) 情報の可視化 (2):数値データの可視化 担当:時井 真紀 6) 情報の可視化 (3):グラフィックス手法を用いた情報の可視化 担当:時井 真紀 7) インタラクティブな情報表現 (1):HTML5 基礎 8) インタラクティブな情報表現 (2):マルチメディア (音声, 動画) の扱い 9) インタラクティブな情報表現 (3):インタラクティブな Web ページの作成 10) 総合演習:これまで学んだことをもとに総合的な課題に取り組む |
| 評価の方法 | 演習への取り組みと報告、課題レポート |
| 教科書 | |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 時井 真紀 月 4 限 7D203 tmaki at slis.tsukuba.ac.jp 鈴木 伸崇 金 6 限 7D204 nsuzuki at slis.tsukuba.ac.jp http://nslab.slis.tsukuba.ac.jp/~nsuzuki/ 松村敦 木 6 限 7D212 matsumura.atsushi.ga あっと u.tsukuba.ac.jp(あっとを変換してください) |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 学校図書館経営 |
| 科目番号 | 01MB521 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 C 秋 A 土 5,6 |
| 担当教員 | 平久江 祐司 |
| 授業概要 | 学校図書館メディアセンターにおける経営, 教育指導, 人材育成などの諸問題を日米のコア文献に基づき考察する. 指定するコア文献は, 年度によって若干の変更はあるが, 日本語文献が中心となる。授業は講義だけでなく, 指定した文献の中から学生が自由に選択し発表を行う。 |
| 備考 | 講義科目 01MB313 との重複履修不可 |
| 達成目標 | 授業計画に挙げた諸問題についての知識や重要な概念を修得するとともに, それらについて分析・評価し, 自己の見解や主張を発表することができる。 |
| 授業計画 | 学校図書館の動向と経営に関する知識を修得するために, 講義形式で授業を行なう。また, 日米の学校図書館経営に関するコア文献を読み, 各自が担当部分を発表していくゼミナル方式も取り入れて授業を行なう。講義内容は, 概ね以下ようになる。これらを通して, 日本の学校図書館・学習情報センターの在り方を展望する。 1) 講義概要の説明及びコア文献の紹介 2) 日本の学校図書館・学習情報センターの動向 (講義形式) 3) 日本の学校図書館・学習情報センターの動向 (講義形式) 4) 日本の学校図書館・学習情報センターの運営と今日的課題 (発表形式) 5) 日本の学校図書館・学習情報センターの運営と今日的課題 (発表形式) 6) 米国の学校図書館 (メディアセンター) の動向 (講義形式) 7) 米国の学校図書館 (メディアセンター) の動向 (講義形式) 8) 米国の学校図書館 (メディアセンター) の運営と今日的課題 (発表形式) 9) 日米の学校図書館・学習情報センター運営の比較考察 10) まとめ (講義形式) |
| 評価の方法 | 発表のために作成した資料とプレゼンテーションを基に評価する。また, 出席状況についても多少考慮する。 |
| 教科書 | 教科書・参考書・上記コア文献については開講時等で随時紹介する。また, 必要に応じて教材として講義資料をプリントし配布する。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 月 3・4 限 7D404 hirakue at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | メディアリテラシー |
| 科目番号 | 01MB522 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 木 7,8 |
| 担当教員 | 鈴木 佳苗 |
| 授業概要 | 現在のような情報社会においては、メディアリテラシーの育成が重要な課題になっている。本講義では、メディアリテラシーの概念と国内外のメディア教育の現状について概説し、メディア教育の課題についての議論を通して、教育現場での応用について考察する。 |
| 備考 | 講義科目 01MB312 との重複履修不可 |
| 達成目標 | 本講義では、以下の点を学び、理解し、教育現場での応用について考察することを目標とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを取り巻くメディア環境 ・メディアリテラシーの概念 ・メディアの影響と理論 ・メディア教育の歴史と現状 ・メディア教育の実践とその効果 ・メディア教育プログラムの計画と評価の方法 ・メディア教育の課題と解決法 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) イントロダクション 2) メディアリテラシーの概念と現在のメディア環境 3) メディアの影響と理論-1 4) メディアの影響と理論-2 5) 日本におけるメディア教育-実践と教材- -1 6) 日本におけるメディア教育-実践と教材- -2 7) 海外におけるメディア教育-実践と教材- -1 8) 海外におけるメディア教育-実践と教材- -2 9) メディア教育プログラムの計画と評価-教育現場での応用- 10) 総括 |
| 評価の方法 | 出席、レポート、発表、最終課題により総合的に評価する。 |
| 教科書 | 講義資料を配布する。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | デジタルドキュメントの技術と権利 |
| 科目番号 | 01MB531 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 C 秋 A 木 7,8 |
| 担当教員 | 阪口 哲男, 村井 麻衣子 |
| 授業概要 | 近年, 書籍や記事などがデジタルデータとして提供される電子書籍や電子出版が普及しつつある. 本講義ではそれらの書籍や記事等のデジタルドキュメントについて, そのデータ形式や作成・編集などの技術的側面と, 著作権などの権利や法的側面の両面を取り上げ, その解説や諸問題の議論を進める. また, 権利処理に関わる DRM や改竄防止, 認証に関わる暗号化技術についても触れる. |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | デジタルドキュメントについて, その技術と権利, 法に関して理解を深め, その取り扱いにおける諸問題について検討・考察することができるようになる。 |
| 授業計画 | <p>授業は原則として以下の項目に添って進めるが, 受講者の背景知識に応じて項目によっては適宜複数回に展開するものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文字の符号化とデジタルドキュメント 2) 画像や音声等のデジタル化 3) デジタルドキュメントのデータ形式 4) デジタルドキュメントの事例 (作成と編集) 5) デジタルドキュメントとメタデータ 6) デジタル暗号技術の基礎と DRM, 改竄防止, 認証について 7) デジタルドキュメントの技術のまとめ 8) 電子書籍と著作権 9) グーグル・ブックス問題と著作権法の現代的課題 10) プレゼンテーション: 著作権法に関する論点 |
| 評価の方法 | レポートおよび授業中のプレゼンテーション |
| 教科書 | |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | <p>阪口 哲男 火曜 4 時限目 7D312 saka at slis.tsukuba.ac.jp http://www.sakalab.org/ 村井 麻衣子 春学期 金 15:15-16:15; 秋学期 火 15:15-16:15 7D506 myco at slis.tsukuba.ac.jp</p> |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | ドキュメント管理 |
| 科目番号 | 01MB532 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 BC 火 7,8 |
| 担当教員 | 白井 哲哉, 石井 夏生利 |
| 授業概要 | この講義では、2011 年 4 月施行の公文書管理法を踏まえた、国・国立大学法人・地方公共団体における公文書の取扱い、管理及び保存利用に関する理論的検討と、現場における諸問題の分析を行う。公文書をめぐる従来の議論や経緯を踏まえつつ、新たな時代の公文書管理を展望する。 |
| 備考 | 西暦偶数年度開講。 講義科目 01MB305 との重複履修不可 |
| 達成目標 | この講義では、公文書の取扱い、管理及び保存利用について必要な知識を包括的に学ぶことができる。 講義を通じて得る知識は、現用公文書から歴史的公文書等に及ぶ今日的課題の解決に資するものである。受講者がそれを公文書館、図書館に止まらず、広く行政等の現場で生かしていくことを望む。 |
| 授業計画 | 1) 基礎理論:アーカイピングとレコードマネジメント 2) 日本近現代における公文書管理の歴史 3) 公文書館法と公文書管理法 4) 国における公文書の管理・保存・利用 5) 地方公共団体における公文書の管理・保存・利用 6) 国立大学法人における公文書の管理・保存・利用 7) 公文書の取扱いをめぐる法的諸問題 8) まとめと展望 なお、講義内容の詳細は、受講者の知識や関心を勘案して決定する。 |
| 評価の方法 | 出席、レポート、期末試験の成績等を勘案して評価する。 |
| 教科書 | 講義で指示する。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 白井 哲哉 水 2 限 7D407 tetsushi at slis.tsukuba.ac.jp 石井 夏生利 春学期木 3 限; 秋学期火 3 限 7D509 kaoriish at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | 歴史的資料や民間団体の文書については奇数年開講「アーカイブ論」で取り上げる。 |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | アーカイブ論 |
| 科目番号 | 01MB533 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 BC 火 7,8 |
| 担当教員 | 白井 哲哉 |
| 授業概要 | この講義では歴史資料(古文書)、企業・学校など諸団体の文書資料など、いわゆる民間所在の記録資料(アーカイブズ)を取り上げ、それらの収集・整理・保存管理・利用活用をめぐる理論的検討と、現場における諸問題の分析を行う。20世紀後半の日本社会では、公文書に先行して民間所在資料の保存運動が展開された。講義では従来の議論や経緯を踏まえつつ、今後の日本社会における歴史的資料の意義を再確認し、保存活用のあり方を展望する。 |
| 備考 | 西暦奇数年度開講。 講義科目 |
| 達成目標 | この講義では、民間所在の記録資料(古文書等)の収集・整理・保存管理・利用活用等について必要な知識を包括的に学ぶことができる。 講義を通じて得る知識は、歴史的資料の保存活用をめぐる今日的課題の解決に資するものである。受講者には、それを公文書館、図書館に止まらず広く現場で生かしていくことを望む。 |
| 授業計画 | 1) 基礎理論:記録資料(アーカイブズ)の概念・種類・特徴 2) 日本社会における記録資料の歴史 3) 記録資料の調査・収集・保存 4) 記録資料の整理と目録記述 5) 記録資料の公開・閲覧・利用 6) 記録資料をめぐる課題:情報化と MLA 連携など 7) まとめと展望 |
| 評価の方法 | 出席、レポートの成績を勘案して評価する。 |
| 教科書 | 講義で指示する。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 水 2 限 7D407 tetsushi at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | 公文書については偶数年度開講「ドキュメント管理」で取り上げる。 |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | 公共経営論 |
| 科目番号 | 01MB541 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 金 7,8 |
| 担当教員 | 鷲頭 美央 |
| 授業概要 | 公共経営の在り方、特に近年における地方自治を取り巻く情勢の変化を踏まえた、自治体経営の在り方について論じる。基本的な地方行財政制度を踏まえた上で、近年における新しい公共経営 (NPM) の考え方や、指定管理者、PFI、市場化テスト、政策評価等の取組を取り上げる。 |
| 備考 | 図書館経営管理コース 講義科目 01MB308 との重複履修不可 |
| 達成目標 | 地方行財政制度の概要について理解する。 併せて、自治体の抱えている課題等について理解し、新しい公共経営 (NPM) の取組が行われるようになった背景や、具体的な取組内容について理解する。 更に、これら理論や取組が、具体的な政策課題にどのように適用されているかを実践的に理解する。 |
| 授業計画 | 概ね次のようなものを予定している。 全 10 回で、前半が地方行財政制度、後半が新しい公共経営関係。 第 10 回にグループワークによるケーススタディを実施する予定。 1) 地方行財政制度を中心とした行政の仕組み 地方行財政制度の基本的な仕組み 地方分権改革や道州制、大都市制度等の最近の動き 2) 新しい公共経営の理論と具体的取組 指定管理者制度、PPP/PFI、市場化テスト等の民間との連携 政策評価や公会計等を活用した行政改革 この他、具体的な政策課題に関するケーススタディを 2 回程度行う予定。 |
| 評価の方法 | 授業への出席状況等を勘案し、レポート及びグループワークにより評価。 |
| 教科書 | 教科書は特に指定しない。必要に応じ、授業の際に文献を紹介する。 |
| 参考書 | 以下の書籍はやや古いですが、現代的な課題について平易に説明しているので参考にされたい。 1. 岡本全勝『地方自治入門』時事通信社 2. デビッド・オズボーンほか『行政革命』日本能率協会マネジメントセンター |
| オフィスアワー | |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 公共サービス論 |
| 科目番号 | 01MB542 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 秋 AB 月 7,8 |
| 担当教員 | 毛利 るみこ |
| 授業概要 | 近年の生涯学習社会の進展に伴い、公立図書館に期待される役割は多様化、高度化している。一方で地方公共団体の財政悪化や行政改革の進展等に伴い、公共サービスに係るコストにも厳しい評価が求められるようになってきている。このような状況の中で、公立図書館が住民ニーズにこたえていくためには、どのような観点からサービス計画を立案し、実施していくことが望まれるのか、法令や制度、予算などの視点から分析し検証する。 |
| 備考 | 図書館経営管理コース 講義科目 |
| 達成目標 | 公立図書館は地方公共団体が提供する公共サービスの一機能であるという観点から、その在り方、提供するサービス、限られた資源（人員、予算等）の効果的な活用などについての、客観的な課題の捉え方や基本的なスタンスを修得する。 |
| 授業計画 | 1) 教育基本法と生涯学習・社会教育 2) 社会教育の現状と課題 3) 図書館に関する主な法令 1 4) 図書館に関する主な法令 2 5) 図書館政策 6) 地方自治体と教育委員会 7) 図書館サービス計画の立案について 8) 図書館における指定管理者制度の現状等 9) 図書館職員の専門性・図書館長の役割、国の関連施策の動向 10) レポート発表 授業の進行、受講者の興味・関心等により変更する場合もある。 |
| 評価の方法 | レポート、講義中の討論への参加などを総合的に判断する。 |
| 教科書 | 配布資料を中心に授業を行う。 |
| 参考書 | 1. これからの図書館の在り方検討協力者会議. 『これからの図書館像~地域を支える情報拠点をめざして~(報告)』(2006.3) 2. これからの図書館の在り方検討協力者会議. 『図書館の設置及び運営上の望ましい基準の見直しについて(報告)』(2012.8) 3. 中央教育審議会答申. 『新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について~知の循環型社会の構築を目指して~(答申)』(2008.2) 4. 中央教育審議会生涯学習分科会. 『第 6 期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理』(2013.1) |
| オフィスアワー | 金曜 4 限 7D307 rmouri at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | 講義の内容に関する課題や意見の発表など、授業への積極的な参加を期待します。 |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 図書館施設計画論 |
| 科目番号 | 01MB543 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 金 7,8 |
| 担当教員 | 植松 貞夫 |
| 授業概要 | 図書館の事業・運営計画においてはしばしば、その実施に当たって増築、改築、新築など何らかの建築的な行為を必要とするものが含まれる。また、図書館経営者には、現有施設を定期的に点検し予防保全的な修繕や改修を行うなど、適切に維持管理することが求められる。本科目では、上記のような建築行為に関して、主体的に関与すべき図書館経営管理者に求められる図書館建築に関わる知識について総合的に扱う。 |
| 備考 | 図書館経営管理コース 講義科目 |
| 達成目標 | 建築の準備段階において、図書館員としてなすべき事柄に関し、建築に関する基本的な知識と、これからの時代の図書館並びに図書館建築像についての基本的な考え方を習得してもらうことを主眼とする。とりわけ、建築は個別事例ごとに最適解を見いだすものであるから、建築の専門知識よりも課題の捉え方や基本的スタンスの理解に重点を置く。 |
| 授業計画 | 1) 建築とは、建設の目的と建築物の宿命 2) 図書館建設のプロセスおよび PFI など建設事業の方式 3) 図書館建築の基本的要件 4) 室・スペースごとの計画 5) 図書館建築に関連する法律・規制 6) 図書館建築における防災対策 7) 既存他用途施設の転用 8) 図書館建築の新たな方向性 9) 業務効率化のための新たな装置・設備 10) 事例に学ぶ |
| 評価の方法 | 試験、講義への参加度合などを総合的に判定する。 |
| 教科書 | ・ 特定の教科書は用いない。 ・ 配布資料と画像とにより概説する。 ・ 参考資料、読むことが望ましい資料については、その都度紹介する。 |
| 参考書 | 1. 植松貞夫ほか. よい図書館施設をつくる JLA 図書館実践シリーズ 13 :日本図書館協会, 2010 2. 植松貞夫. 図書館施設論 現代図書館情報学シリーズ 12:樹村房,2014 |
| オフィスアワー | 植松 貞夫 uematsu@slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | ライブラリー・ガバナンス論 |
| 科目番号 | 01MB544 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 月 7,8 |
| 担当教員 | 逸村 裕, 毛利 るみこ |
| 授業概要 | ライブラリー・ガバナンスに関わる諸問題を扱う。ガバナンスは「統治」と訳されることが多い。その内容は、関連する諸法規・基準の理解と健全な経営管理を意味する。この科目では図書館および情報センターの経営管理に関わるトピックを中心に講義とケースメソッドを中心に進める。公共図書館と大学図書館それぞれに関わる問題と共通する問題に対して理解を深める。文献・資料・ウェブサイトなどの情報を収集分析し、ライブラリー・ガバナンスを利用者, 組織, 図書館員等さまざまな視点から「良い図書館とは何か」を議論し、説明を行えるようにする。 |
| 備考 | 図書館経営管理コース 講義科目 |
| 達成目標 | ライブラリー・ガバナンスに関わる諸法規・基準について理解する。 図書館の使命、目標、目的と評価そして今日的機能を理解する。 図書館活動に関係する問題点、その展開を明確にする。 図書館活動の企画運営に関する知識を深める。 |
| 授業計画 | 1) ライブラリー・ガバナンスとは (1) 図書館とガバナンス (2) 危機管理 2) 公共図書館におけるライブラリー・ガバナンス (1) 背景 (2) 関係諸法規・基準 (3) 評価 3) 大学図書館におけるライブラリー・ガバナンス (1) 背景 (2) 関係諸法規・基準 (3) 評価 4) ケーススタディとグループ討議 (1) 法規省令に関わる事例 (2) 情報システムに関わる事例 |
| 評価の方法 | 出席状況と授業参画度 (10)、小テスト (10)、レポート (15*2)、試験 (50) の総合評価。 レポートについては出題意図の理解と要件の記述がポイントとなる。 |
| 教科書 | なし |
| 参考書 | 1. 講義の進行に合わせ、適宜資料を配布する。 |
| オフィスアワー | 逸村 裕 水 1 限 7D313 hits at slis.tsukuba.ac.jp 毛利 るみこ |
| その他 | 授業関連資料、関連 WWW を多く紹介する。 予習復習をきちんとすることが必須である。 |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | LIS 研究の最新動向 |
| 科目番号 | 01MB551 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 火 7,8 |
| 担当教員 | 歳森敦 他 |
| 授業概要 | 複数の教員が担当し、図書館情報学の広範な領域の研究について、その最新動向をそれぞれの教員の研究内容を交えて概説する。 |
| 備考 | 講義科目 |
| 達成目標 | 様々な研究領域の、最新動向を述べるができる。 研究領域ごとの特性を理解し、説明できる。 |
| 授業計画 | 1) ガイダンス 担当:歳森 敦 2) メタデータ, セマンティック Web, Linked Open Data 担当:永森 光晴 3) 分類, オントロジー, SKOS 担当:緑川 信之 4) 情報アクセス研究の最新動向 担当:上保 秀夫 5) 学習支援と大学図書館 担当:溝上 智恵子 6) クラウドソーシングと図書館 担当:森嶋 厚行 7) 人文学とコンピュータ: 現状と課題 担当:松本 浩一 8) 博物館情報とコレクションマネジメント 担当:水嶋 英治 9) 統計的言語処理と検索システム 担当:手塚 太郎 10) 電子図書館と情報探索行動 担当:高久 雅生 試験週間 (6/30) は予備日とする |
| 評価の方法 | 各回レポートをもとに評価する。 |
| 教科書 | 特に指定しない。 |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 水 9:30-11:30 7D114 tosimori at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | |

| | |
|---------|--|
| 授業科目名 | 研究の手引き |
| 科目番号 | 01MB552 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 AB 土 3,4 |
| 担当教員 | 歳森 敦, 松林 麻実子 |
| 授業概要 | 修士論文を中心に, 研究論文の構想から調査・実験の方法, 研究成果の公表までを解説する. |
| 備考 | 演習科目 |
| 達成目標 | 研究テーマの設定, 情報の入手方法, 文献の読み方, 研究方法, 論文の書き方, プレゼンテーションの方法といった, 研究の過程における主要ポイントを理解する。特に, 修士論文の作成過程がイメージできるようにする。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業概要 担当:歳森 敦 2) 研究の構想 担当:歳森 敦 3) 情報源の利用 担当:松林 麻実子 4) 調査・実験方法 1(文献調査) 担当:松林 麻実子 5) 調査・実験方法 2(質的調査法) 担当:松林 麻実子 6) 調査・実験方法 3(量的調査法) 担当:歳森 敦 7) プレゼンテーション 担当:歳森 敦 8) 研究倫理と成果の公表 担当:松林 麻実子 9) 論文執筆 担当:松林 麻実子 10) 受講生によるプレゼンテーション 5/2 は休講, 試験週間 (6/27) は予備日とする |
| 評価の方法 | 各回で課題 (レポート) を課す |
| 教科書 | |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 歳森 敦 水 9:30-11:30 7D114 tosimori at slis.tsukuba.ac.jp 松林 麻実子 金 9:30-11:30 7D111 mamiko at slis.tsukuba.ac.jp |
| その他 | |

| | |
|---------|---|
| 授業科目名 | 調査分析法 |
| 科目番号 | 01MB553 |
| 単位数 | 2.0 単位 |
| 標準履修年次 | 1・2 年次 |
| 時間割 | 春 C 秋 A 土 3,4 |
| 担当教員 | 後藤 嘉宏 |
| 授業概要 | 社会学のひとつの方法として社会調査法が発達し、その主たる部分がアンケートなどの量的調査である。他方、量的調査への反省の意味も込めて質的調査も発展してきた。本科目ではこれらのうち量的調査の方法を中心に講述し、さらに量的調査の結果に対する統計分析の手法や質的調査についての理解も促す。演習科目ではあるが、領域が広いので講述（講義形式）の部分も大きい。基本的に受講生自身が問題意識をもって仮説を作り、それを調査票に仕上げていく作業をホームワークとして進めて貰い、後半の授業において「質問票（質問文）の発表とそれに対する相互討論」（「授業計画」第7~9回）で各自のホームワークの成果を発表して貰う。さらに「集計、分析の留意点」（第10,11回）では、過去の調査票文案や研究事例を具体的に検討、紹介し、統計分析やコーディングの際の問題点が分かるようにする。本科目を通じて量的調査や質的調査をするための基礎を学ぶ。 |
| 備考 | 演習科目 |
| 達成目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・量的調査と質的調査の意図や方法の違いが分かる。 ・量的調査をする際の統計分析の基礎に関する理解が得られる。 ・実際に調査をする際の心構えや方法が分かる。 |
| 授業計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 課題提示と課題の達成方法・仮説の作り方・概念と変数と質問文の関係（第2回以下についても適宜ふれる） 2) 社会科学の位置づけ（ハードな科学とソフトな科学の両面）と量的調査、質的調査/質的調査と量的調査の違いと相互の媒介性 3) それぞれの作った仮説の発表 4) 量的調査に纏わる統計の基礎（母集団とサンプリング/誤差と検定、等）/量的調査の質問文作成の留意事項（1） 5) 量的調査の質問文作成の留意事項（2） 6) 質的調査（ライフヒストリーについての半構造化インタビュー）の方法 7) 質問票（質問文）の発表とそれに対する相互討論 8) 質問票（質問文）の発表とそれに対する相互討論 9) 質問票（質問文）の発表とそれに対する相互討論 10) 量的調査の集計、統計分析をする際の留意点 11) 質的調査のコーディング、纏め方の留意点 |
| 評価の方法 | 上記第3回及び第7~9回での発表の質（全体評価に占める比率3割）と、討論での発言の量と質（2割）、上記第3回及び第7~9回での討論を踏まえた改訂版を最終レポートとして提出して貰うが、その内容の評価（5割）。 |
| 教科書 | なし |
| 参考書 | |
| オフィスアワー | 春 AB 火 5 限; 春 C 水 3 限; 秋 AB 木 3 限; 秋 C 水 3 限 7D513 ygoto at slis.tsukuba.ac.jp http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~ygoto/index.html |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・配付資料を配る場合には http://www.slis.tsukuba.ac.jp/resource/wiki/ にアップするので、各自ダウンロードして授業に臨むように（配るとは限らない）。ホームワークが多く求められる科目である。個々のホームワークの結果の検討に多くの時間を割くので、CUP の学生以外、正規受講は認めない（オブザーバーでの参加は応相談）。 |

